

II. コアカリ活用支援ガイドの検証・普及

1. 養成施設の教員向け研修の実施

1) 概要

本研修会は、令和元年度に作成したコアカリ活用支援ガイドの養成施設教員への周知を図り、栄養学教育コアカリを用いた養成カリキュラムの充実をすすめることを目的に実施した。また、実施した研修会やアンケートの結果をふまえ、コアカリ活用支援ガイドの課題整理を行い、修正版の作成について検討した。

新型コロナウイルス感染防止の観点から、当初予定していた各地での研修会は開催せず、研修用の映像媒体を作成して Web 上で公開し、同時にアンケート調査を実施した。

(1) 対象

管理栄養士養成施設 151 校および栄養士養成施設 143 校に対し、全国栄養士養成施設協会と連名で施設長あてに案内文を送付した（資料 1）。養成施設教員であれば、本学会員以外でも視聴可能とした。

(2) 視聴期間

2020 年 11 月 13 日（金）～12 月 11 日（金）

*アクセス障害が発生したため 12 月 16 日（水）まで延長した。

(3) 参加方法

本学会のホームページ上でパスワード付きオンデマンド配信を行った。パスワードは全国の養成施設に発送した案内文に記載し、参加者は直接アクセスして視聴できるようにした。参加費は無料とした。

2) コアカリ活用支援ガイド研修会（オンデマンド）内容

(1) 理事長挨拶（2 分 47 秒）

理事長 村山伸子（新潟県立大学）より、本研修会の主旨について説明した。

(2) 栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの概要説明（19 分 48 秒）（資料 2）

前理事長・学術担当理事 武見ゆかり（女子栄養大学）より、平成 29 年度および 30 年度に検討した栄養学教育コアカリの概要および要点について説明した。

平成 29 年度の調査で明らかにした「社会状況の変化，多様化・高度化する社会や国民の多様なニーズに対応できる管理栄養士・栄養士のめざす姿」をふまえて、専門的な教育内容の 6

割程度を目安にして作られたコア・カリキュラムである。管理栄養士・栄養士として求められる基本的な資質・能力を大項目の「A」に記し、これは「B」から「H」の項目を学修することで修得される。各養成施設には、この栄養学教育コアカリを活用して、それぞれの項目で提示されている学修目標を包括しつつ、特色ある独自のカリキュラムを構築してほしい。そのためには、教育能力の向上、臨地実習を想定した教員の実践的能力の向上、担当する教育分野と合致した研究の推進など、教職員の質の向上が求められる。

(3) コアカリ活用支援ガイドの解説

管理栄養士部会 (8分53秒) (資料3)

理事 小切間美保 (同志社女子大学) より、「教育養成領域での人材養成」報告書および活用支援ガイド 38・39 ページの (図) 管理栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例をもとに栄養学教育コアカリに沿ったカリキュラム改正の具体的な方法について説明した。

組織内のリーダー発信で栄養学教育コアカリの勉強会を開催することからスタートし、教員間の共通理解を図る。その後、カリキュラム検討の体制を整え、その実施について承認を得る。本学会が提示しているエクセルチェックシート等を用いて、現行のカリキュラムと栄養学教育コアカリの「学修目標」との照合・点検作業を行ない、教育内容の関連性の確認、課題の抽出、自校の特徴の確認等を行なう。この作業は教員間の情報交換を行うことができ、FD (Faculty Development) にもつながる。また、自校の特色を知ることは、今後の展望も明らかになると考えられる。これらのことをふまえて、カリキュラム改正の必要性を検討し、必要があれば改正案を作成する。これができれば、実際に新カリキュラムを実施することになるが、最も大切なことは、一度の改正で終わるのではなく、実施後のチェックと教育効果の評価を行い、PDCA サイクルをまわすことである。

栄養士部会 (14分59秒) (資料4)

支援ガイドの検証・普及部会委員 竹内弘幸 (富山短期大学) より、「教育養成領域での人材養成」報告書および活用支援ガイド 198・199 ページの (図) 栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例をもとに栄養学教育コアカリに沿ったカリキュラム改正の具体的な方法について説明した。

学科の責任者などがリーダーとなって、現状の教育課題を認識し、将来ビジョンを持ち、まず全体スケジュールを作成する。研修会では、「A. 栄養士として求められる基本的な資質・能力」について十分に討論するとよい。その後、カリキュラムの点検と課題抽出を行なうが、授業カリキュラムだけでなく、課外活動等も考慮するとよい。次の過程の改正案の作成については、改正案が学生に過度の負担 (時間割の過密化) になっていないかを確認し、また栄養士養成施設指導要領との適合も確認する必要がある。新しいカリキュラムを実施したあとは、教育効果の評価を行って PDCA サイクルをまわしていく。そのためには、その評価法は

測定可能な項目とし、調査時期も合わせて最初から決めておくと正しく評価できる。

(4) パネルディスカッション

コアカリ活用支援ガイドの普及を目的として、学内の教育カリキュラム編成に関わる学会員および支援ガイドの作成に関わったメンバーから、支援ガイドを活用する際の要点、利点および課題を示した。

管理栄養士部会 (22分 18秒)

管理栄養士養成施設での活用に向けて

収録：令和2年10月25日

司会：木村典代（高崎健康福祉大学）

パネラー：柳澤幸江（和洋女子大学）

稲山貴代（長野県立大学）

新宅賀洋（帝塚山大学）

オブザーバー：小切間美保（同志社女子大学）

塚原丘美（名古屋学芸大学）

【要点】

・コアカリ活用支援ガイドの学内における周知度と共有について

周知度は養成施設によって大きく異なる。養成施設に対する実態調査では、「今後、学内での活用を検討予定」が半数近くあり、コアカリは認知されていても、コアカリ活用支援ガイドになると認知度は低下する。特に、専門基礎分野の教員の認知不足が考えられる。コアカリ活用支援ガイドを共有して活用するためには、学部長や学科長などのリーダーシップが重要と考えられ、そのリーダーに対する研修会や非常勤教員および職員を含む教職員全体への周知が必要である。

・有効だと思われる活用方法や事例、活用の可能性について

教員個人がシラバスの見直しや授業評価による修正にコアカリ活用支援ガイドを活用し、その後に組織全体で活用方法を検討する必要がある。コアカリ活用支援ガイドの活用事例報告書にはそれらの議論が載せられてあり参考になる。栄養学教育コアカリの構成項目ごとにチェックできる確認用エクセルチェックシートを活用すると、カリキュラムの見直しだけでなく、教員間の連携がとれるようになる。このチェックシートは行数が多いが、1つひとつ確実に見直すことができる。また、見直して修正点が見つければ、PDCAサイクルを使って改革していくことが大切である。このPDCAをまわすためには「評価」が大切であり、事例報告書にはGoogleフォームを利用して学生の理解度を評価している、卒業生アンケートを実施しているなど、参考にできるものが多かった。この栄養学教育コアカリは生涯をかけて修得することを前提に作られているため、卒前教育と卒後教育のあり方を検討するためにも卒業生アンケートは有益である。

・コアカリ活用支援ガイドの利点について

利点はカリキュラム編成の課題を明確にできることである。これが、具体的な目標設定とアクションにつながり、正しく PDCA をまわすことができる。特に、この栄養学教育コアカリの特性である学修目標に項目番号を使用して科目間のつながりを明確にしていることは、年次進行、授業内容の重複や欠落などの整合性を確認できる。コアカリ活用支援ガイドの活用事例報告書にはこの科目間の関連性がわかりやすくまとめられているものがあり、これらを参考にしてカリキュラム編成を行うとよい。

・活用促進のためのアイデアなど

コアカリ活用支援ガイドの事例報告書は、臨床栄養・介護分野、スポーツ栄養分野、学校栄養分野、給食管理分野および公衆栄養分野の 5 分野から、あわせて 15 施設が記載されている。コアカリ活用支援ガイドをすべて理解してからと考えるとハードルが高いので、まず自身の大学（組織）と近い事例をモデルとして始めてみるとよい。あるいは、マンパワーが足りないと感じる場合は一つの分野から調整を始めるのもよい。また、科目間の連携や評価などの作業を意識して支援ガイドを利用すると、教員間の連携がさらに深まる。

養成施設に対する実態調査から、栄養学教育コアカリ以外の 40% の内容は、必ずしもはっきりとは見えなかった。この点を明確にすることが養成施設の特性を打ち出すことになる。このコアカリ活用支援ガイドを利用して栄養学教育コアカリをさらに有効に利用するためにも、この 40% の内容を具体的に示すことが今後の課題の一つである。

・まとめ

コアカリ活用支援ガイドの普及と共有のためには、養成施設内のキーパーソンと検討メンバーの存在が重要である。また、コアカリ活用支援ガイドは個人・組織のどちらでもカリキュラムチェックに利用することができ、本学会が提示するエクセルチェックシートは有用である。さらに、カリキュラムを組織全体で見直すと教員間の連携が図れることも利点の一つである。

良いカリキュラムを作り上げるためには、このコアカリ活用支援ガイドを用いて PDCA サイクルをまわすことが非常に重要である。その導入時や改革時に、コアカリ活用支援ガイドに報告されている他の養成施設の例を参考にするとよい。

栄養士部会（19分39秒）

栄養士養成施設での活用に向けて

収録：令和2年10月24日

司 会 : 田中恵子 (京都文教短期大学)
パネラー : 三好恵子 (女子栄養大学短期大学部)
竹内弘幸 (富山短期大学)
久木久美子 (大阪国際大学短期大学部)

【要点】

・栄養学教育コアカリおよびコアカリ活用支援ガイドの活用状況について

短期大学栄養士養成施設の令和元年の調査では、栄養学教育コアカリの学内周知は進んでいるが、活用実施は3割程度にとどまっていた。このことから、教育課程への栄養学教育コアカリ活用の組織的な取り組みを推進するために、コアカリ活用支援ガイドの普及が重要である。しかしながら、周辺校へ聞き合わせた限りコアカリ活用支援ガイドの周知はできていない。

・栄養学教育コアカリの活用を進めるための準備

学科長などリーダーが、自校の養成したい栄養士像をできるだけ具体的にイメージし、教育課題を認識することが重要である。その上で、各教員が共通認識をもって連携し、チームで取り組む仕組みが必要となる。また、活用に入る前に、学科改組・カリキュラム改正まで踏み込むのか、授業改善・充実に留めるのか、方針を明確にした上で、手順の大枠とスケジュールの確認が必要である。さらに、活用においては教務担当事務局との連携が求められる。最初の段階から協力を得ておくと、カリキュラムやシラバスなどの改正に係る事務手続きがスムーズに進む。

・現行の教育内容の点検と課題の抽出にあたって

教育課程への活用では、栄養学教育コアカリと自校のカリキュラムを照合する作業が基本となる。この作業では、改善学会 HP に掲載されている栄養学教育コアカリのエクセルチェックシート（学修目標一覧表）が便利である。作業においては、栄養学教育コアカリの立て付けが、栄養士法の教育内容分野と一致していないことに留意する必要がある。この作業を関連する分野の教員が共同でおこなうことで、栄養学教育コアカリの学修目標の抜け落ちの確認、科目の関連性、時間割の順序、重複の調整、カリキュラムのスリム化が可能となる。

・改正案の作成・確認にあたって

非常勤講師との科目間連携が難しいことが課題である。対処例として、パネラーから、非常勤講師担当科目の学修内容について、学科内で栄養学教育コアカリとの照合、点検を行い、授業概要と到達目標を作成した上で授業計画の作成を担当者に依頼したことで、緊密な連携がとれた事例が紹介された。三つのポリシーとの関連では、活用事例報告書に、DP の到達度をルーブリックで評価する際に、栄養学教育コアカリの「A 栄養士として求められる基本的な資質・能力」を参考にした事例が示されている。

・栄養学教育コアカリの活用によるカリキュラム改正の PDCA サイクル

教育改善を実行した効果を客観的に評価し点検する必要がある。評価は、教育を行う側だけでなく、学生による評価、外部、たとえば校外実習先や就職先による評価など総合的にを行い、効果と不足・課題を検証し、次の改善につなげる、即ち PDCA サイクルを回すことが重要である。校外実習先との情報共有については、実習先での効果的、効率的な指導につながる、新人教育の参考になるという意見があった。

・まとめ

栄養学教育コアカリの活用では、組織的に取り組み、教員が共通認識を持つことで、栄養学教育コアカリの学修内容を各養成施設での教育目標に対応させることや、科目間の効果的なつながりが確実となり、効果的な評価活動も可能となる。

活用事例報告書の中には、特色ある取り組みが、栄養士として求められる基本的な資質・能力の醸成につながっている事例が報告されていた。その一方で、2年制栄養士課程の時間的制約から、栄養学教育コアカリの学修内容をもれなく含めた上でいかに養成施設独自の特色ある教育を行うかという課題がある。このような課題を養成施設間で情報共有し、より効果的な栄養学教育コアカリの活用方法を探っていくことが求められる。

【コアカリ支援ガイド活用のためのキーワード（2つのパネルディスカッションより）】

リーダーの存在、組織的取り組み、養成ビジョン、教育課題の認識、エクセルシートチェック、教員間（科目）連携、効果的な評価活動、PDCA サイクル、活用事例報告、実現可能な取り組み

(5) アクセス状況

本研修会の閲覧数（視聴者が再生ボタンをクリックした数）と全鑑賞数（視聴者が最後まで動画を見た回数）を以下に示す。全体の平均視聴率（平均再生時間/全動画時間×100）は約80%であった。

	閲覧数（件）	全鑑賞数（件）
・理事長挨拶	272	187
・栄養学教育コアカリの概要説明	285	194
・コアカリ活用支援ガイドの解説（管理栄養士）	221	141
・コアカリ活用支援ガイドの解説（栄養士）	165	102
・パネルディスカッション（管理栄養士）	192	106
・パネルディスカッション（栄養士）	125	62

3) まとめ

管理栄養士・栄養士養成施設の教員に対し、コアカリ活用支援ガイドの周知と課題整理を行うことを目的として、栄養学教育コアカリを用いた養成カリキュラム改正に関するオンデマンド研修会を開催した。栄養学教育コアカリの説明、コアカリ活用支援ガイドを利用したカリキュラム改正の手順に関する解説、この内容に関するパネルディスカッションの映像媒体を作成した。全国の管理栄養士・栄養士養成施設教員を対象として案内したところ、参加者は管理栄養士養成施設の教員および栄養士養成施設の教員が、それぞれ約200人および約150人であった。

令和2年11月1日

管理栄養士養成施設の長
栄養士養成施設の長 殿

特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 理事長 村山 伸子
一般社団法人 全国栄養士養成施設協会 会長 滝川 嘉彦

令和2年度 厚生労働省委託

管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」 「栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」活用支援ガイド研修会のご案内

謹啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日本栄養改善学会では、厚生労働省より委託を受け、平成29年度、30年度に「管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム（以下、「栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」）の作成を行い、令和元年度にこの普及活用をめざし、活用支援ガイドの作成を行いました。令和2年度も引き続き、厚生労働省からの委託により、「栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」活用支援ガイドの普及と検証を目的とした研修会をオンデマンド配信で実施することになりました。

つきましては、ご多用の折、誠に恐縮ですが、関係教員の研修会へのご参加をお願い申し上げます。本研修会は、全国の管理栄養士養成施設および栄養士養成施設の教員を対象に実施致しますので施設内でご周知いただきますようお願いいたします。

何卒ご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

1. 研修会の期間：令和2年11月13日（金）～12月11日（金）
2. 対象者：全国の管理栄養士養成施設および栄養士養成施設の教員
3. 参加方法：学会ホームページ上でのオンデマンド配信（別紙のとおり）
4. 参加費：無料

以上

[本研修会に関する問合せ先]

特定非営利活動法人日本栄養改善学会事務局
〒108-0073 東京都港区三田 3-4-18 二葉ビル 904号
Tel:03-5446-9970 E-mail: kaizen_core@jsnd.jp

栄養学教育モデル・コア・カリキュラム活用支援ガイド 研修会

主催：日本栄養改善学会

研修会の期間：令和2年11月13日（金）～12月11日（金）

対象者：全国の管理栄養士養成施設および栄養士養成施設の教員

プログラム：

1. 栄養学教育コアカリについて（概要説明）
2. 栄養学教育コアカリ活用支援ガイドの解説
 - 1) 管理栄養士養成施設での活用
 - 2) 栄養士養成施設での活用
3. パネルディスカッション
 - 1) 管理栄養士養成施設での活用に向けて
 - 2) 栄養士養成施設での活用に向けて
4. アンケート

参加方法：学会のホームページ上でオンデマンド配信していますので、上記の期間随時、下記のURLより、本学会のサイトにアクセスしてご覧ください。研修会後のアンケートは、活用支援ガイドの検証に使用させていただきますので、ご協力をお願いします。

URL： <http://core.information.jp/> パスワード： core

研修会への参加およびアンケートへの返信は、各先生でお願いします。

参加費：無料

* 栄養学教育モデル・コア・カリキュラム及び、活用支援ガイドは、下記の日本栄養改善学会HPよりダウンロードできます。

<http://jsnd.jp/modelcore.html>

[本研修会に関する問合せ先]

特定非営利活動法人日本栄養改善学会事務局
〒108-0073 東京都港区三田 3-4-18 二葉ビル 904 号
Tel:03-5446-9970 E-mail: kaizen_core@jsnd.jp

厚生労働省 平成29・30年度 管理栄養士専門分野別人材育成事業
「教育養成領域での人材育成」

**管理栄養士・栄養士のための
栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの概要**

特定非営利活動法人 日本栄養改善学会
前理事長 武見ゆかり
(女子栄養大学 栄養学部)

1

厚生労働省からの委託
平成30年度 管理栄養士専門分野別人材育成事業

(1)多様な社会ニーズに対応できる管理栄養士・栄養士像の提示
管理栄養士・栄養士として求められる基本的な資質と能力の体系的整理を踏まえ、管理栄養士・栄養士が活躍する医療・介護・福祉・学校・行政など多様な領域における関係機関、有識者(他職種を含む)からヒアリング等を通して、多様なニーズに対応できる管理栄養士・栄養士像を明らかにし、提示する。

(2)管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの作成
教育カリキュラムの現状から、共通して取り組むべき「コア」の抽出及び大学院教育まで視野においた「モデル」としての体系的整理を行い、管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムを作成する。

2

報告書p.6

栄養学教育モデル・コア・カリキュラム検討の基本方針

- ① 社会状況の変化、多様化・高度化する社会や国民の多様なニーズに対応できる管理栄養士・栄養士のめざす姿を明らかにし、それをふまえる。(H29年度に調査)
- ② 栄養士法の改定を伴うものではないので、現在の栄養士法の規定をふまえる。
- ③ 全国の管理栄養士・栄養士養成施設における教育カリキュラムと学位等の現状分析(大学院を含む)をふまえる。(H29年度に調査)
- ④ 他の医療系職種のモデル・コア・カリキュラムを視野におく。
- ⑤ 栄養士養成(2年間)、管理栄養士養成(4年間)、大学院での高度人材養成(管理栄養士+2年間)の3タイプの栄養学教育モデル・コア・カリキュラムを検討、作成する。
- ⑥ 管理栄養士のモデル・コア・カリキュラムにおける「コア」は、管理栄養士の全教育カリキュラムから基礎教養科目を除いた、専門的な教育内容の6割程度を目安に精査する。それにより、残りの4割を各養成施設の特徴を出すための教育内容に当てることが可能とする。
- ⑦ 栄養士のモデル・コア・カリキュラムは、原則、管理栄養士のモデル・コア・カリキュラムに包含されるものとし、管理栄養士のモデル・コア・カリキュラムをふまえた内容、表現とする。

3

報告書p.5.6

他の医療系職種のモデル・コア・カリキュラム

医学教育モデル・コア・カリキュラム	歯学教育モデル・コア・カリキュラム	薬学教育モデル・コア・カリキュラム	看護学教育モデル・コア・カリキュラム
平成28年度改訂	平成28年度改訂	平成25年度改訂	平成29年度改訂

医学教育モデル・コア・カリキュラムより
「今後、医師以外の各職種においても、モデル・コア・カリキュラム等の策定や改訂が行われると想定されるが、チーム医療等の推進の観点から、例えば本改訂において歯学教育との間で「求められる基本的な資質・能力」において試みたように、医療人として共有すべき価値観を共通で盛り込むなど、卒前教育の段階でより整合性のとれた内容となることが重要」

看護学教育モデル・コア・カリキュラムより
「チーム医療等の推進の観点から、医療人として多職種と共有すべき価値観を共通で盛り込み、かつチーム医療等の場で看護系人材が独自に担わなければならないものも盛り込んだ」

4

報告書p.8

**管理栄養士・栄養士の期待される像
(キャッチフレーズ)**

「栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する」

栄養学を学術的基盤とし、栄養・食を手段として、さまざまな人々の健康はもとより、より広義のwell-beingに寄与する専門職であることを、明瞭簡潔に表現。

参考:医学教育モデルコアカリのキャッチフレーズ
「多様なニーズに対応できる医師の養成」(p.5)

本モデル・コア・カリキュラムという栄養学は、様々なライフステージおよび健康状態にある人々の栄養の営みを対象とし、ヒトに関わる領域(栄養生理学、栄養生化学なども)、食品に関わる領域(食品学、調理科学なども)、その関係性や実践に関わる領域(栄養疫学、栄養教育なども)、すべて含む広義な概念として栄養学をとらえ、モデル・コア・カリキュラムを作成した。

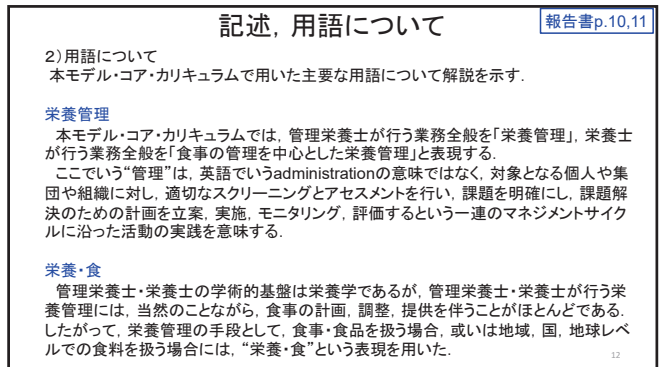
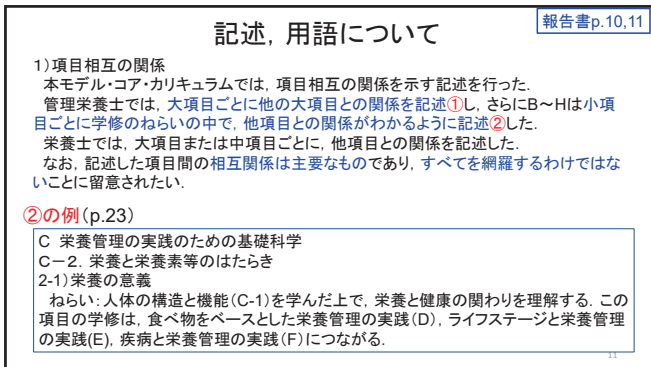
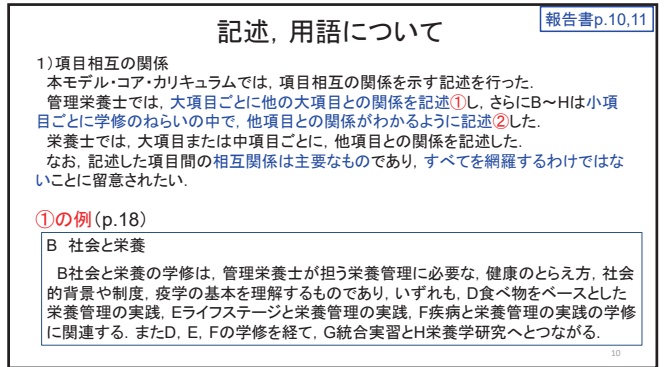
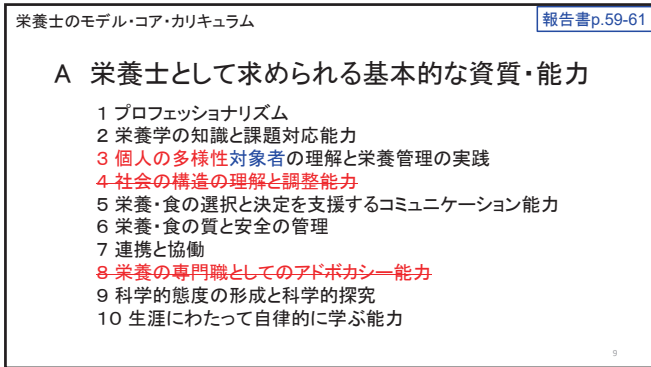
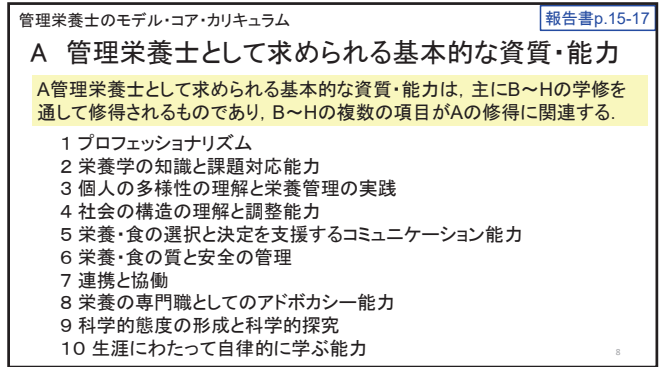
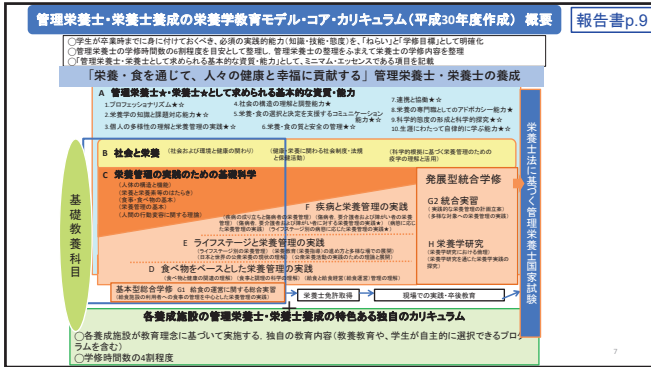
5

報告書p.8

モデル・コア・カリキュラムの全体像(大項目)

栄養学教育	医学教育	歯学教育	看護学教育
A 管理栄養士・栄養士として求められる基本的な資質・能力	A 医師として求められる基本的な資質・能力	A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力	A 看護系人材(看護職)として求められる基本的な資質・能力
B 社会と栄養	B 社会と医学・医療	B 社会と歯学	B 社会と看護学
C 栄養管理の実践のための基礎科学	C 医学一般	C 生命科学	C 看護の対象理解に必要な基本的知識
D 食べ物をベースとした栄養管理の実践	D 人体の各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療	D 歯科医療機器(歯科材料、機械、器具)	D 看護の実践の基本となる専門基礎知識
E ライフステージと栄養管理の実践	E 全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療	E 臨床歯学	E 多様な場における看護実践に必要な基本的知識
F 疾病と栄養管理の実践	F 診療の基本	F シミュレーション実習	F 臨床実習
G1 給食の運営に関する検討事項	G 臨床実習	G 臨床実習	G 臨床実習
G2 統合実習			
H 栄養学研究			G 看護学研究

6



記述、用語について

報告書p.10,11

マネジメントサイクル

マネジメントとは、組織の目標を設定し、その目標を達成するために組織の資源を効率的に活用し、リスクの管理を行うことという。

マネジメントサイクルは、マネジメントを行う際の手順のことで、組織や人が目的を達成するために計画を作成し、実施し、計画通りに実施できたかどうかを評価し、見直しを行って、その結果を次の行動計画に結びつける一連の流れをいう。マネジメントサイクルの代表的な例が、PDCAサイクルである。

栄養ケア・マネジメント

栄養管理において、人を対象に、栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画の立案、計画の実施、モニタリング、評価を行い、栄養ケア計画の見直しを行って、より質の高い栄養ケアの実践につなげるマネジメントサイクルのことを、本報告では栄養ケア・マネジメントと表現する。

NCP: Nutrition Care Process (栄養ケアプロセス)

アメリカ栄養士会が、栄養管理の質の改善をめざし、栄養管理の過程を標準化するため、4区分(栄養アセスメント、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリングと評価)で手順を示したものである。栄養ケア・マネジメントの国際的な基準として提案され、活用されている。本報告では「F. 疾病と栄養管理の実践」の中でNCPを基本とした学修を行うこととした。

13

管理栄養士と栄養士の業務の違いを示す表現

■管理栄養士が行う業務全般

「栄養管理」

■栄養士が行う業務全般

「食事の管理を中心とした栄養管理」

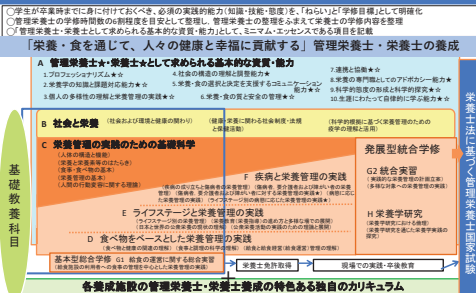
例)A-1 プロフェッショナリズム (p. 59)

ねらい 豊かな人間性、生命への尊厳や職業に対する倫理性を備え、幅広い教養を有し、**食事の管理を中心とした**栄養の専門職としての使命感と責任感をもって、職務を遂行できる。

14

管理栄養士・栄養士養成の栄養学教育モデル・コア・カリキュラム(平成30年度作成) 概要

報告書p.9



各養成施設が教育理念に基づいて実施する、独自の教育内容(教養教育や、学生が自主的に選択できるプログラムを含む)
 ◎学修時間数の4割程度

15

さいごに

養成施設におけるモデル・コア・カリキュラムの活用

養成施設におけるモデル・コア・カリキュラムの活用

報告書p.12

- ✓ 各養成施設におけるカリキュラムの編成は、各養成施設の判断により行うもの。
- ✓ カリキュラムの編成や評価の過程において、本モデル・コア・カリキュラムの学修目標(コンピテンシー)を活用してほしい。
- ✓ 各養成施設で、本モデル・コア・カリキュラムが提示する学修目標を包括するとともに、
- ✓ 特色ある独自のカリキュラムを構築。
- ✓ なお、すべてを卒前教育において修得することは困難。
- ✓ 生涯をかけて修得していくことを前提に、卒前教育で行うべきものを精査することが必要。

これからの栄養学教育においては、

- ✓ 各養成施設において特色ある取組や授業内容の改善と
- ✓ これらの実現に向けた教職員の質の向上が求められる。具体的には、教育能力の向上、随地実習を想定した教員の実践的能力の向上、担当する教育分野と合致した研究の推進など。

17

厚生労働省 令和2年度管理栄養士専門分野別人材育成事業
養成施設向けの栄養学教育コアカリ活用支援ガイドの検証・普及事業

【プログラム】

2. 栄養学教育コアカリ活用支援ガイドの解説
1) 管理栄養士養成施設での活用



日本栄養改善学会
理事 小切間美保

図1 管理栄養士養成校におけるコアカリ活用の手順例 p38

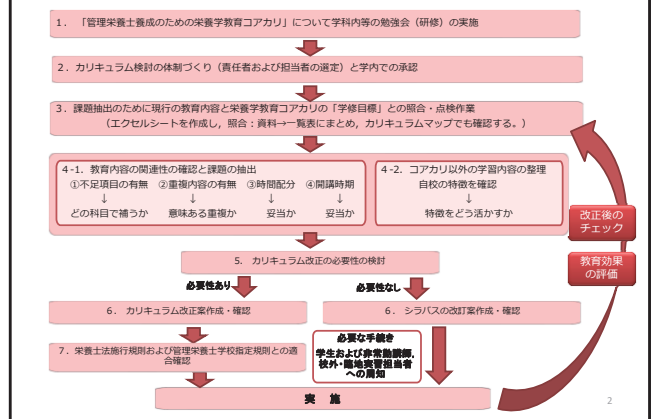


図2 管理栄養士養成校におけるコアカリ活用の手順例の解説 p39

1. 栄養学教育コアカリについての理解を深めるために、学科の責任者がリーダーとなって学科内の教員を対象に勉強会（研修）を行う。非常勤講師についても極力参加してもらうことが望ましい。これによって教員間の共通理解を図る。
 2. 学科の責任者主導のもと、カリキュラム検討の体制づくり（責任者および担当者の選定）を行い、実施について学内で承認を得る。
 3. 課題抽出のために、各科目の担当教員が一覧表（管理栄養士養成のための栄養学教育コアカリExcel版）を用いて、現教育内容が栄養学教育コアカリの「学習目標」を網羅しているか確認する。確認作業は分野ごとに複数の教員が協議しながら検討することが望ましい。一覧表に集約し、科目間の関連性からカリキュラムマップで年次進行と学習内容を確認する。専任教員が担当分野の非常勤講師および校外・留地実習担当者と連携を密にするための仕組み作りが重要。
 4. 課題の抽出は、「学習目標」に対して、不足項目はないか、重複している項目はないか（重複すること自体が悪いわけではない）、学習目標別に費やしている時間配分は適切であるか、開講時期は適切であるか、などについて点検する。栄養学教育コアカリ以外で開講している科目等を目標の特徴として抽出し、教育内容を確認・整理する。
 5. 抽出した課題から、カリキュラム改正の必要性を検討する。
 6. カリキュラム改正にあたっては、①カリキュラム編成、②科目変更（新設、廃止、名称変更、単位数、履修形式）、③開講時期などに栄養学教育コアカリを反映させる。シラバス改訂にあたっては、④各科目の学習目標、⑤授業計画、⑥評価方法などに反映させる。時間割、学生への負担、担当教員の時間数、施設利用状況などの観点から、実施可能性を確認する。さらに栄養学教育コアカリとの整合性について最終確認を行う。
 7. 改正案が、栄養士法施行規則ならびに管理栄養士学校指定規則に適合しているか点検・確認を行う。必要な手続き（学則改正および関係部庁への届け出など）およびシラバス改訂、学生への周知、非常勤講師・校外留地実習担当者への周知を行う。
- 実施後、栄養学教育コアカリを活用した効果について、客観的に測定できるように評価方法を定め（授業アンケートや成績評価等）、実施する。また、カリキュラム改正やシラバス改訂後の教育内容について、栄養学教育コアカリを活用して再度評価を行い、PDCAサイクルを回す。この際、社会のニーズに合わせた教育内容の検討が必要である。
- 栄養学教育コアカリ以外の学習内容についても同様、社会のニーズ等を見据えて、継続的に検討を行う

図1 管理栄養士養成校におけるコアカリ活用の手順例

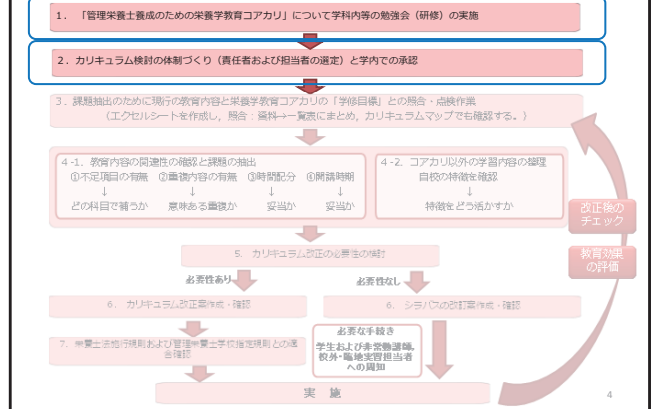


図2 管理栄養士養成校におけるコアカリ活用の手順例の解説

1. 「管理栄養士養成のための栄養学教育コアカリ」について学科内等の勉強会（研修）の実施

- ・ 栄養学教育コアカリについての理解を深めるために、学科の責任者がリーダーとなって学科内の教員を対象に勉強会（研修）を行う。
- ・ 非常勤講師についても極力参加してもらうことが望ましい。
- ・ これによって教員間の共通理解を図る。

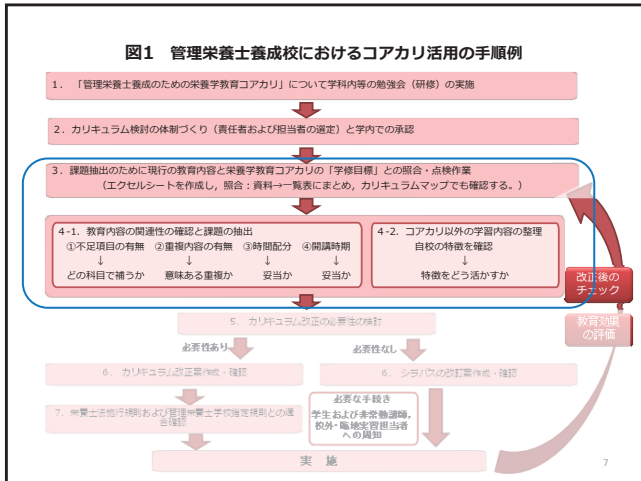
教員全体の意識を高めることが重要ですが、難しい……。

図2 管理栄養士養成校におけるコアカリ活用の手順例の解説

2. カリキュラム検討の体制づくり（責任者および担当者の選定）と学内での承認

- ・ 学科の責任者主導のもと、カリキュラム検討の体制づくり（責任者および担当者の選定）を行い、実施について学内で承認を得る。

例えば、総合大学の場合など学科の特性に関する理解を得ることも重要。教育のPDCAサイクルを回すために必要な業務であることを示す。



作業表(例)

栄養学教育モデル・コア・カリキュラム
それぞれ担当の科目について、教えておられる内容のNo.に○印を入れてください。 D

No.	内容	食品学	食品加工学	調理科学	給食経営管理論	食品衛生学
D-1 食べ物と健康の関連の理解						
1-1) 食品成分表						
①	構成			○	△	
②	収載成分・変動要因			○	△	
③	エネルギー換算係数			△	○	
④	利用における留意点					
1-2) 食品の調理・加工と食品成分の変化						
①	物性的・科学的変化		○	△		
②	劣化原因と防止法	○				
③	加工原理と特徴					○
1-3) 食品の安全性と関連する法規や制度						
①	ハザードとリスク					○
②	リスク分析					
③	法規と行政制度		○			

図2 管理栄養士養成校におけるコアカリ活用の手順例の解説

3. 課題抽出のために現行の教育内容と栄養学教育コアカリの「学修目標」との照合・点検作業

- 課題抽出のために、各科目の担当教員が一覧表（**管理栄養士養成のための栄養学教育コアカリExcel版**）を用いて、現教育内容が栄養学教育コアカリの「学修目標」を網羅しているか確認する。
- 確認作業は分野ごとに**複数の教員が議論**しながら検討することが望ましい。
- 一覧表に集約**し、科目間の関連ならびにカリキュラムマップで年次進捗と学修内容を確認する。
- 専任教員が担当分野の非常勤講師および校外・臨地実習担当者と**連携を密にするための仕組み作り**が重要。

担当責任者を明確にする。

図2 管理栄養士養成校におけるコアカリ活用の手順例の解説

4-1. 教育内容の関連性の確認と課題の抽出

4-2. コアカリ以外の学習内容の整理自校の特徴を確認

- 課題の抽出は、「学修目標」に対して、**不足項目**はないか、**重複している項目**はないか（重複すること自体が悪いわけではない）、学修目標別に費やしている**時間配分**は適切であるか、**開講時期**は適切であるか、などについて点検する。
- 栄養学教育コアカリ以外で開講している科目等を自校の特徴として抽出し、教育内容を確認・整理する。

現状の「見える化」

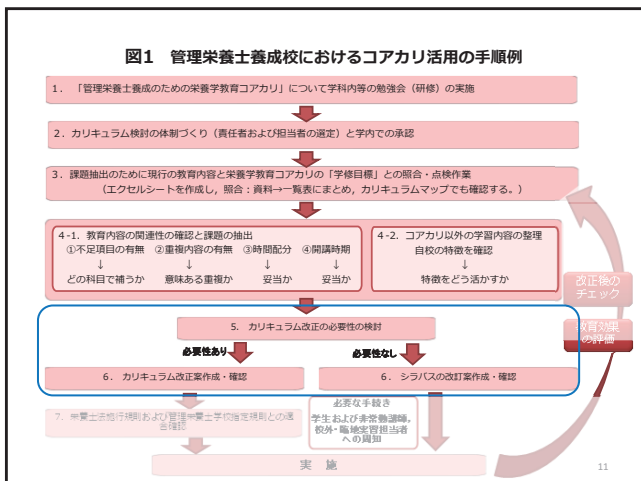


図2 管理栄養士養成校におけるコアカリ活用の手順例の解説

5. カリキュラム改正の必要性の検討

6. カリキュラム改正案作成・確認 / シラバスの改訂案作成・確認

- カリキュラム改正にあたっては、
 - カリキュラム編成
 - 科目変更（新設、廃止、名称変更、単位数、履修形式）
 - 開講時期 などに栄養学教育コアカリを反映させる。
- シラバス改訂にあたっては、
 - 各科目の学修目標
 - 授業計画
 - 評価方法 などに反映させる。
- 時間割、学生への負担、担当教員の時間数、施設利用状況などの観点から、実施可能性を確認する。
- さらに栄養学教育コアカリとの整合性について最終確認を行う。

図2 管理栄養士養成校におけるコアカリ活用の手順例の解説

実施

実施後、栄養学教育コアカリを活用した効果について、客観的に測定できるように評価方法を定め（授業アンケートや成績評価等）、実施する。また、カリキュラム改正やシラバス改訂後の教育内容について、**栄養学教育コアカリを活用して再度評価**を行い、PDCAサイクルを回す。
この時、社会のニーズに合わせた教育内容の検討が必要である。

さらに・・・

栄養学教育コアカリ以外の学修内容についても同様に、社会のニーズ等を見据えて、継続的に検討を行う。

一度の改訂で終わらせない。
PDCAが大切！

図1 管理栄養士養成校におけるコアカリ活用の手順例

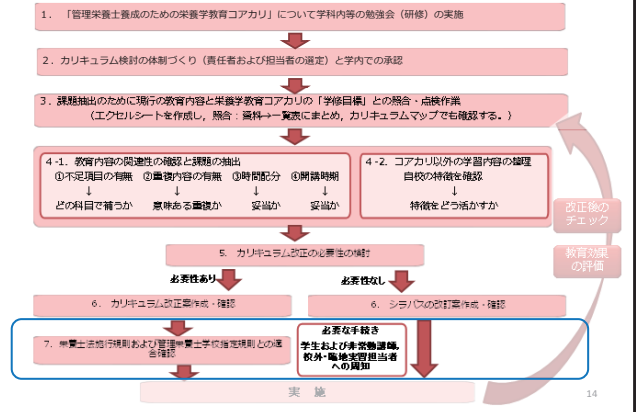
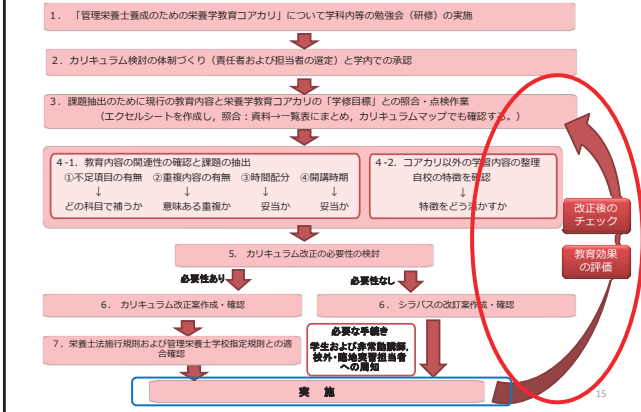


図1 管理栄養士養成校におけるコアカリ活用の手順例



厚生労働省 令和2年度管理栄養士専門分野別人材育成事業
養成施設向けの栄養学教育コアカリ活用支援ガイドの検証・普及事業


【プログラム】
2. 栄養学教育コアカリ活用支援ガイドの解説
1) 管理栄養士養成施設での活用

ご清聴ありがとうございました。
次はパネルディスカッションを
ご覧ください。

厚生労働省 令和2年度 管理栄養士専門分野別人材育成事業
養成施設向けの栄養学教育コアカリ活用支援ガイドの検証・普及事業
栄養学教育コアカリ活用支援ガイド研修会

【プログラム】

2. 栄養学教育コアカリ活用支援ガイドの解説
2) 栄養士養成施設での活用



特定非営利法人 日本栄養改善学会
支援ガイドの検証・普及部会委員
竹内 弘幸

1

コアカリ活用の意味合い

コアカリとは栄養士養成の**道標**

↓

高校生 → 栄養士養成校への理解
在校生 → 学修内容の意義・全体理解
教員 → 担当科目の学修内容決定
養成施設 → 教育課程マネジメント

↓

地域・社会に貢献できる**栄養士の養成**

2

活用手順についての補足

- 管理栄養士版と趣旨は同様であり、活用手順の違いについて特別な意味はない。
- 教育課程を根本的に見直す場合の手順例を示した。
- 各養成の実態に合わせての活用が望ましい。
→より簡略化した手順もありうる

3

図3 栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例

「教育養成領域での人材育成」
報告書および活用支援ガイド 198頁

4

図4 栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例の解説

「教育養成領域での人材育成」
報告書および活用支援ガイド 199頁

1. コアカリ検討チームの責任者および担当者を選定
コアカリの活用にあたっては、全学あるいは学科の責任者（リーダー）となることが重要である。
2. 「栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」研修会の実施
コアカリについての理解を深めるために、学科内の教員を対象に研修会を行う。非営利組織においても開催してもらうことが望ましい。
3. 現行の教育内容のコアカリを活用した点検と課題の抽出
コアカリの学習目標（A項目～G）について、科目を担当している教員が一覧表を用いて、現行内容がコアカリを網羅しているか、漏れている項目はないか（重複すること自身が悪いわけではない）、学習目標に「貫いている」という項目はどの程度か、到達時間と関係があるか、などについて点検する。科目別や担当教員については、科目担当者だけでなく教務員（TA）や、後者の教員と議論しながら検討することが望ましい。
4. 改正案の作成・確認
点検の結果、必要と認められる項目は、3つの検討シート（コアカリ導入検討シート、到達時間関係シート、到達時間関係シート）の記入欄に記入される。コアカリ以外のカリキュラム（各養成施設における特色ある独自のカリキュラムを指す）についても検討を行い、必要に応じて追加を行う。その結果をもとに、到達時間の関係、教育内容の関係、（A）卒業として求められる能力・能力）を勘案した上で、コアカリの活用範囲を決定する。
5. 実施の妥当性確認と最終確認
改正案が、卒業士法施行規則に適合しているか点検を行う。担当教員の配置、施設利用状況、時間割などの観点から、実施可能かを確認する。また、コアカリとの整合性について最終確認を行う。コアカリ導入・変更、更新手続きなどが必要となる場合もある。
6. 教育内容の評価方法の決定と実施
コアカリを導入した授業について、教務的に測定できるように評価方法を定め、改正案の学対して評価を実施しておく。教育内容を教務的に評価することは難しいが、2～3つの観点（到達時間、到達率）を評価する方法を決定する。
7. コアカリ導入等改正に必要な手続き
コアカリ導入等改正を行う場合、関係部署へ必要な手続きを行う。その際、申請期間などを留意しながら、進捗確認スケジュールを事前に必要とする。
8. 教育内容を学生・校外実習先へ周知
コアカリの活用範囲が決定された後、入学時のオリエンテーションなどで、学生に十分に周知を行う。また、各科目の「おひき」や「学習目標」については、担当教員がシラバス等を用いて授業内で説明を行う。校外実習先にも説明が必要である。卒業生と実習先の打ち合わせをする場合コアカリを周知して、コアカリの学習目標の説明を行うと良い。
9. 改正後のチェック
FDCAのレビューの観点から、教育内容等の改正効果について評価を行い、改正後の評価結果と比較分析を行い、継続的改善を図る必要がある。

5

図3 栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例

1. コアカリ検討チームの責任者および担当者の選定
2. 「栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」研修会の実施

1. 検討チームの責任者および担当者の選定

- ・全学あるいは学科の責任者などがリーダーとなるべき。
- ・リーダーは、現状の教育課題を認識し、ビジョンを持っていること。
- ・担当者は、教務についてよく知っている教員が望ましい。
- ・コアカリ活用の成否、責任者の選定が握っている。
- ・選定された責任者は、まず全体スケジュールを作成（補足）

6

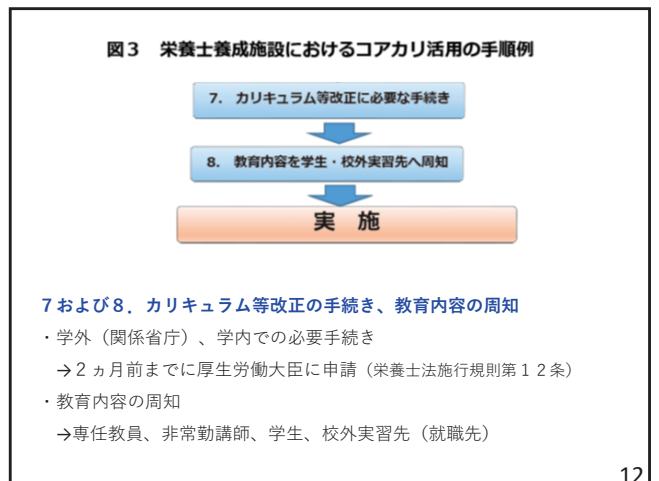
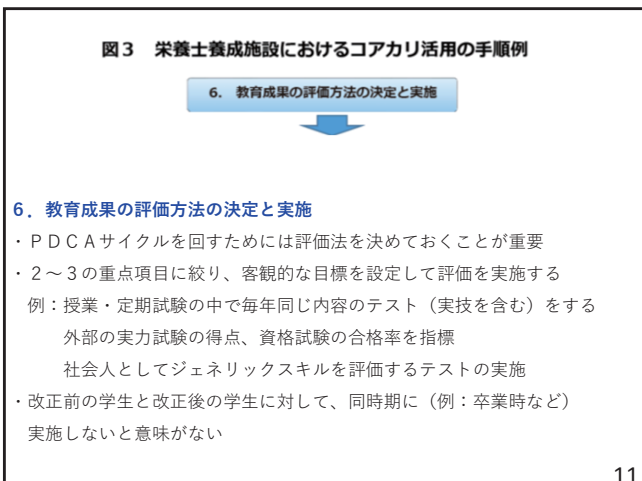
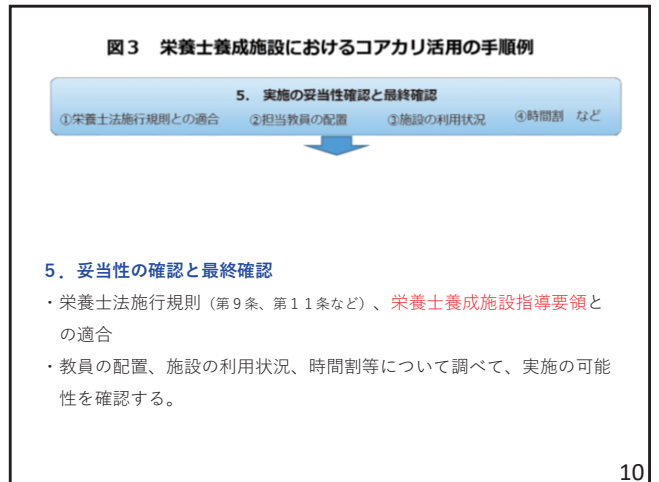
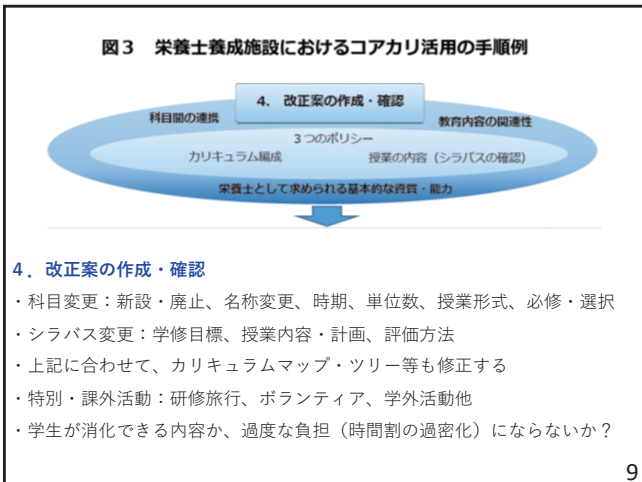
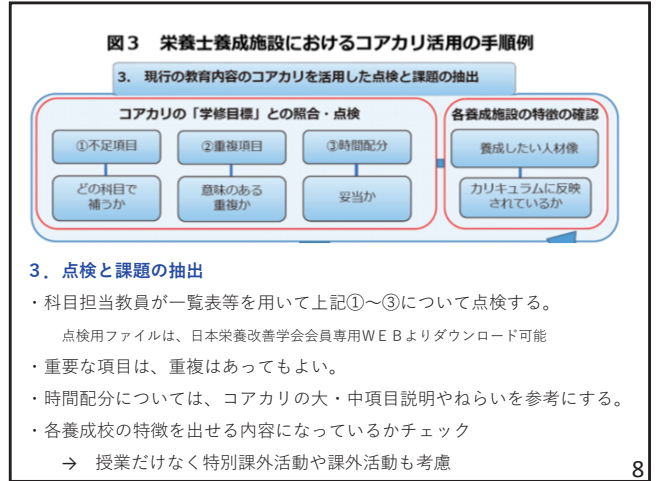
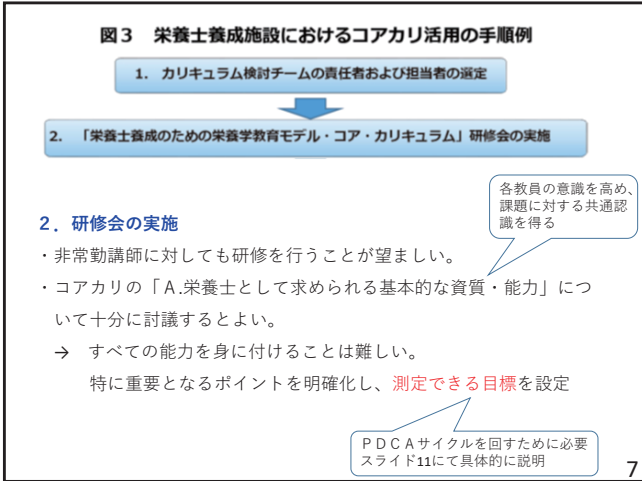
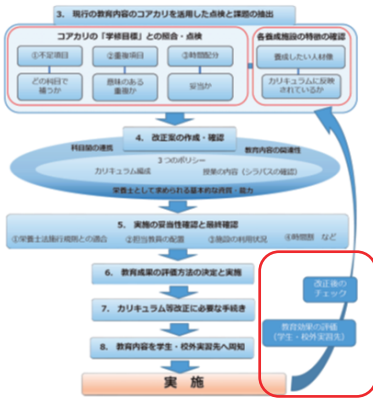


図3 栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例



13

【プログラム】

2. 栄養学教育コアカリ活用支援ガイドの解説
- 2) 栄養士養成施設での活用

ご視聴ありがとうございました。

14

2. コアカリ活用支援ガイドの修正版の作成

1) アンケート調査の実施

栄養学教育モデル・コア・カリキュラム活用支援ガイド研修会（オンデマンド）の参加者（視聴者）を対象として、栄養学教育コアカリの認知度とカリキュラム改正の必要性、コアカリ活用支援ガイドの認知度と利用状況、さらに、これを活用したカリキュラム改正の実現可能性、コアカリ活用支援ガイドに対する意見等（含自由記述）について、アンケート調査を行った。管理栄養士養成施設関係者に対するアンケート（資料5-1）と栄養士養成施設関係者に対するアンケート（資料5-2）をそれぞれ作成した。この回答は、無記名とし、映像媒体を視聴した後の同日中に Web 上で依頼した。

アンケート回答件数は管理栄養士養成施設 85 人および栄養士養成施設 35 人であった。

アンケート企画・実施担当者

長幡友実（東海学園大学）、神田聖子（愛国学園短期大学）、新宅賀洋（帝塚山大学）

2) アンケート調査の結果（資料6）

管理栄養士部会

・コアカリ活用支援ガイド研修会参加者の特性ならびに参加理由（表1-1，表1-2）

アンケートの回答者数は 85 人で、東北・北陸地域を除いた、全地域からの参加があった。所属は 4 年生大学の管理栄養士養成施設が 83.5%，専門学校の管理栄養士養成施設が 1.2%であった。現在の主な職業は、専任教員が 71.8%で、非常勤講師は 2.4%であった。勤務校での立場は、課程の長またはカリキュラム改正の取りまとめやそれに関わる立場である者が 35.3%を占めていた。主な教育・研究分野は、臨床栄養学・公衆栄養学・栄養教育論がともに 11.8%であり、この他は、ほぼすべての教育・研究分野の参加者が認められた。

研修会参加理由（複数回答可）として最も多かったのは、「栄養学教育コアカリに対する知識を増やそうと思ったから」が 57.6%。次いで「支援ガイドの内容を詳しく知りたかったから」が 48.2%となった。「栄養学教育コアカリを現在活用しているから」は 27.1%であった。

・コアカリ活用支援ガイド研修会参加者の認知と活用状況および学内共有状況（表2-1，表2-2）

研修会参加時点でのコアカリ活用支援ガイドの活用状況は、「実施しているものはない」と回答した者は 27.1%に留まり、「現行の教育内容と栄養学教育コアカリの「学修目標」との照合・点検作業」が 34.1%，「カリキュラム検討の体制づくり（責任者および担当者の選定）と学内での承認」および「教育内容（科目など）の関連性（つながりや重なり）の確認と課題の抽出」がともに 32.9%であった。

栄養学教育コアカリの認知については、「よく知っていた」、「全体を概ね知っていた」および「担当科目の範囲は知っていた」のいずれかを回答した者は69.4%であった。その内栄養学教育コアカリの学部・学科内での共有については、「現在共有している」が50.8%、「今後共有の予定」が39.0%で、共有の状況が示された。また、該当者の本研修会での栄養学教育コアカリの認知・理解については、すべての回答者から内容の再認識・深化・他分野での理解の向上があったとの回答が得られた。一方、栄養学教育コアカリの内容について「ほとんど知らなかった」は23.5%であったが、本研修会で95%が理解が深まったとした。

・ コアカリ活用支援ガイド研修会参加者の栄養学教育コアカリの活用意欲（表3）

本研修会を通して、勤務校で今後栄養学教育コアカ리를「活用できる（したい）と思う」あるいは「どちらかという活用できる（したい）思う」と回答した者の割合は、すでに活用している者を除くと96.5%であった。その理由は、複数回答で「活用の必要性を感じたから」78.2%となり、今回のコアカリ活用支援ガイド研修会が、今後の栄養学教育コアカリの活用に向けた、動機付けになり得る事がうかがえた。

・ コアカリ活用支援ガイド研修会参加者の管理栄養士養成施設における栄養学教育コアカリ活用に関する考えや、コアカリ活用支援ガイドに示された栄養学教育コアカリ活用の手順例とその解説（表4：自由記述）

教育効果の評価について、複数の意見があげられ、学生アンケートや第三者評価以外の方法提示の要望や、認証評価のような独立した組織による評価の検証が提案されていた。加えて、評価方法に対して、評価項目の具体的例示の希望があった。この点については、今後コアカリ活用支援ガイドをきっかけに、近隣の養成施設間での情報交換を行うことも有効であると考えられる。

栄養学教育コアカリの活用方法やそのポイントについては、卒後教育もふまえたカリキュラムの見なおしや、大学院教育、リカレント教育とのつながり等、学部学生以外の活用が示されていた。また、教員間・科目間・就職や社会ニーズとの対応への活用等、連携手段・媒体としての活用、さらに栄養学教育コアカリ以外の4割を占める部分に、養成施設の強みや特徴をどう反映させるか、という記述があった。

栄養士部会

・ コアカリ活用支援ガイド研修会参加者の特性ならびに参加理由（表5-1，5-2）

アンケートの回答者数は35人で、その54.3%が短期大学栄養士養成施設、11.4%が専門学校、8.6%が4年制大学の所属であった。現在の職業は、専任教員が74.3%、主な教育・研究分野は、多いものから給食経営管理論および栄養教育論がそれぞれ17.1%および11.4%であった。研修会参加の理由（複数回答可）として最も多かったのは、「栄養学教育コアカ리를今後、教育に活用していきたい」と「コアカリ活用支援ガイドの内容を詳し

く知りたかったから」で、ともに参加者の68.6%が選択していた。

・コアカリ活用支援ガイド研修会参加者の認知と活用状況（表6-1，6-2）

研修会参加時点でのコアカリ活用支援ガイドの活用状況として、「実施しているものはない」と回答した者が31.4%と最も多く、次いで28.6%が「現行の教育内容と栄養学教育コアカリの「学修目標」との照合・点検」、22.9%が「カリキュラムの特徴の確認」と回答した。一方、栄養学教育コアカリについては、「よく知っていた」、「全体を概ね知っていた」および「担当科目の範囲は知っていた」のいずれかを回答した者は71.5%に達していた。栄養学教育コアカリの周知は進んでいるが、活用に関してはこれからであり、栄養学教育コアカリとの比較・照合など、カリキュラム改正の端緒についたところである実態がうかがえた。

・コアカリ活用支援ガイド研修会参加者の栄養学教育コアカリの活用意欲（表7）

本研修会を通して、勤務校で今後栄養学教育コアカリを「活用できる（したい）と思う」あるいは「どちらかという活用できる（したい）思う」と回答した者の割合は、あわせて68.6%であった。その理由として、「活用の必要性を感じたから」を選んだ者が75.0%と最も多く、次いで「活用事例を知り、活用できそうだった」と思った者が33.3%であった。栄養学教育コアカリ活用の意欲は高く、コアカリ活用支援ガイドが活用の必要性を感じる機会となったことをうかがわせた。

・コアカリ活用支援ガイド研修会参加者の栄養士養成施設における栄養学教育コアカリ活用に関する考え（自由記述）

コアカリ活用支援ガイドに示された栄養学教育コアカリ活用の手順例とその解説に対する回答は無かったが、栄養学教育コアカリの活用において、学修目標の到達深度や評価の検討が今後必要であるという意見があった。なお、栄養士養成における評価項目については、令和元年度報告書のp196の⑥に評価項目を選定する際の考え方を記載しているので参照いただきたい。また、コアカリ活用支援ガイド研修会を通して、養成したい栄養士としての人材像の明確化と共有、学内外での情報と意識の共有、非常勤講師への対応、現状の分析などの重要性を再認識できたという記述があった。

3) まとめ

アンケート調査の結果より、栄養学教育コアカリの認知度は7割程度であったが、その内容について理解していない者が多かった。またコアカリ活用支援ガイドを用いたカリキュラム見直しの実施度は低く、何も実施していないものは約30%であり、これから始める施設が多かった。しかしながら、本研修会で理解が深まったと回答した者が95%と高く、本研修会は有益であった。また、栄養学教育コアカリに沿ってカリキュラム改正の必要性を感じている参加者が多く、さらにコアカリ活用支援ガイドを活用できる（したい）と回答した割合も極めて高かった。一方、コアカリ活用支援ガイドに対する改善点等の意見は無かったことから、これを現段

階で修正する必要性は低いと考えられた。

以上のことから、コアカリ活用支援ガイドの利便性を上げるために「コアカリ支援ガイドダイジェスト版」を作成した。その際、コアカリ支援ガイドの内容を再度精査し、より理解しやすいよう補足の文言の追記や表現の統一性を図るなどの微修正を施した。ダイジェスト版を多くの方にご覧いただき、各養成施設の特色ある管理栄養士・栄養士教育に活用いただけることを期待している。

管理栄養士養成施設ご所属の方

栄養学教育モデル・コア・カリキュラム活用支援ガイド 研修会アンケート

この度は、「管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」(以下、コアカリ)活用支援ガイド研修会にご参加いただきありがとうございました。本研修会は、コアカリ活用支援ガイドの普及と検証を目的として開催いたしました。ぜひとも、アンケートへのご協力をお願いいたします。なお、本アンケートへの回答内容は統計的に処理されるため、個人が特定されることはありません。また、結果を目的以外に使用することはありません。(所要時間は5～10分です。)

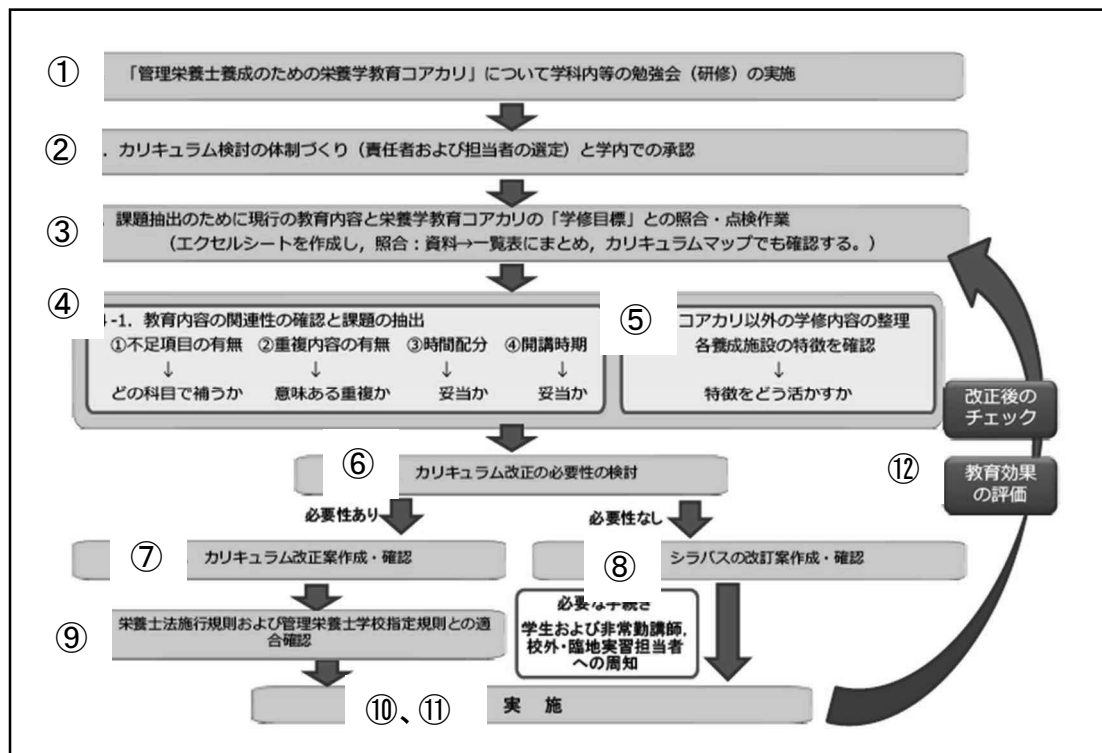
1. 本研修会にご参加くださった理由をお選びください。(〇はいくつでも)

- ①コアカリを現在、教育に活用しているから
- ②コアカリを今後、教育に活用していきたいと思ったから
- ③コアカリに対する知識を増やそうと思ったから
- ④コアカリを知る良い機会だと思ったから
- ⑤コアカリ活用支援ガイドの内容を詳しく知りたかったから
- ⑥コアカリ活用支援ガイドを活用したいと思ったから
- ⑦知り合いから勧められたから
- ⑧何となく興味があったから
- ⑨その他 ()

2. 本研修会で解説されたコアカリ活用支援ガイドのコアカリ活用の手順例(下図)の中で、貴校ですでに実施しているものがあれば教えてください。(〇はいくつでも)

- ①コアカリについて学科内等の勉強会（研修）の実施
- ②カリキュラム検討の体制づくり（責任者および担当者の選定）と学内での承認
- ③貴校の現行の教育内容とコアカリの「学修目標」との照合・点検作業
- ④貴校の教育内容（科目など）の関連性（つながりや重なり）の確認と課題の抽出
- ⑤コアカリ以外の貴校の学修内容の整理（貴校のカリキュラムの特徴の確認）
- ⑥カリキュラム改正の必要性の検討
- ⑦カリキュラム改正案作成・確認
- ⑧シラバスの改訂案作成・確認
- ⑨カリキュラム改正案と栄養士法施行規則ならびに管理栄養士学校指定規則との適合確認
- ⑩カリキュラム改正の実施
- ⑪シラバス改訂の実施
- ⑫改正後のチェックや教育効果の評価
- ⑬その他（ ）
- ⑭実施しているものはない

図 管理栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例



3. 本研修会への参加以前に、コアカリ(平成 30 年度作成)の内容についてどの程度知っていましたか。(〇は1つ)

- ①よく知っていた → 3-1、3-2 へ
- ②全体を概ね知っていた → 3-1、3-2 へ
- ③担当科目の範囲は知っていた → 3-1、3-2 へ
- ④ほとんど知らなかった → 3-3 へ

3-1. 「①よく知っていた」、「②全体を概ね知っていた」、「③担当科目の範囲は知っていた」と回答した方に質問します。本研修会を通して、コアカリ(平成 30 年度作成)についてどの程度知ることができましたか。(〇はいくつでも)

- ①知っていた内容の再確認ができた
- ②知っていた内容以外で新たに知ることがあった
- ③知っていた内容の理解が深まった
- ④知っていた内容以上に新たに知ることがなかった

3-2. 「①よく知っていた」、「②全体を概ね知っていた」、「③担当科目の範囲は知っていた」と回答した方に質問します。コアカリ(平成 30 年度作成)の内容を学部(学科)内で共有していますか。(〇は1つ)

- ①現在、共有している
→共有方法を教えてください。例：学部(学科)内でコアカリの勉強会(研修会)を実施した
()
- ②現在は共有していないが、今後、共有する予定
- ③現在は共有しておらず、今後も共有しないと思う

3-3. 「④ほとんど知らなかった」と回答した方に質問します。本研修会を通して、コアカリ(平成 30 年度作成)についてどの程度理解が深まりましたか。(〇は1つ)

- ①理解が深まった
- ②どちらかという理解が深まった
- ③どちらかという理解は深まらなかった
- ④理解は深まらなかった

4. 本研修会への参加以前に、コアカリ活用支援ガイド(令和元年度作成)の内容についてどの程度知っていましたか。(〇は1つ)

- ①よく知っていた →4-1へ
- ②概ね知っていた →4-1へ
- ③ある程度は知っていた →4-1へ
- ④ほとんど知らなかった →4-2へ

4-1. 「①よく知っていた」、「②概ね知っていた」、「③ある程度は知っていた」と回答した方に質問します。本研修会を通して、コアカリ活用支援ガイド(令和元年度作成)についてどの程度知ることができましたか。(〇はいくつでも)

- ①知っていた内容の再確認ができた
- ②知っていた内容以外で新たに知ることがあった
- ③知っていた内容の理解が深まった
- ④知っていた内容以上に新たに知ることがなかった

4-2. 「④ほとんど知らなかった」と回答した方に質問します。本研修会を通して、コアカリ活用支援ガイド(令和元年度作成)についてどの程度理解が深まりましたか。(〇は1つ)

- ①理解が深まった
- ②どちらかという理解が深まった
- ③どちらかという理解は深まらなかった
- ④理解は深まらなかった

5. 本研修会を通して、役立ったと思う内容を教えてください。

[]

6. 本研修会を通して、今後、あなたの勤務校でコアカ리를活用できる(したい)と思いましたが。(○は1つ)

- ①すでに活用している →7へ
- ②活用できる(したい)と思う →6-1へ
- ③どちらかという活用できる(したい)と思う →6-1へ
- ④どちらかという活用できる(したい)と思わない →6-2へ
- ⑤活用できる(したい)と思わない →6-2へ

6-1. 「②活用できる(したい)と思う」、「③どちらかという活用できる(したい)と思う」と回答した方に質問します。その理由を教えてください。(○はいくつでも)

- ①活用の必要性を感じたから
- ②活用事例を知り、活用できそうだったから
- ③その他 ()

6-2. 「④どちらかという活用できる(したい)と思わない」、「⑤活用できる(したい)と思わない」と回答した方に質問します。その理由を教えてください。(○はいくつでも)

- ①活用の必要性を感じないから
そう思う理由 ()
- ②勤務先では活用できる状況にないから
そう思う理由 ()
- ③その他 ()

7. 本研修会で解説された管理栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例(図 1)とその解説(図 2)の改善点がありましたら教えてください。(〇はいくつでも)

①管理栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例

→具体的にどの部分ですか。ご自由にご記入ください。

[

]

②管理栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例の解説

→具体的にどの部分ですか。ご自由にご記入ください。

[

]

③その他

[

]

④改善点は特にない

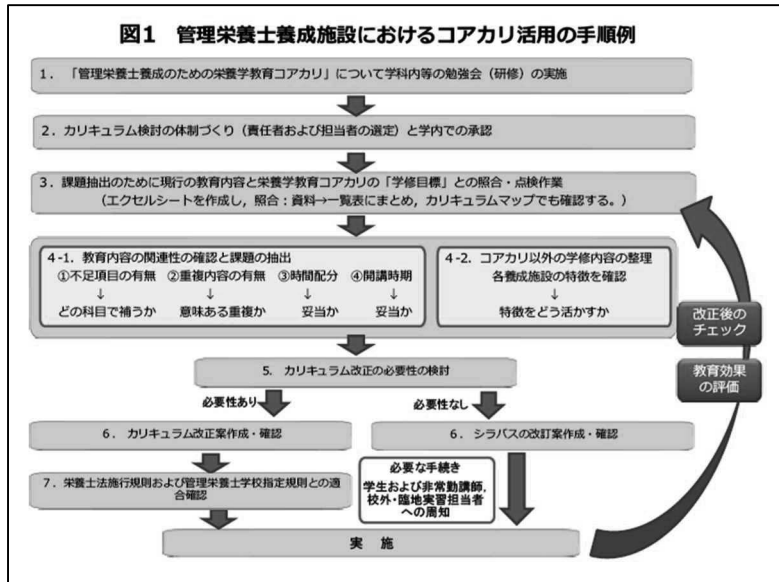


図2 管理栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例の解説

1. 栄養学教育コアカリについての理解を深めるために、学科の責任者がリーダーとなって学科内の教員を対象に勉強会(研修)を行う。非常勤講師についても種力参加してもらうことが望ましい。これによって教員間の共通理解を図る。
2. 学科の責任者主導のもと、カリキュラム検討の体制づくり(責任者および担当者の選定)を行い、実施について学内で承認を得る。
3. 課題抽出のために、各科目の担当教員が一覧表(管理栄養士養成のための栄養学教育コアカリExcel版)を用いて、現行教育内容が栄養学教育コアカリの「学修目標」を網羅しているか確認する。確認作業は分野ごとに複数の教員が議論しながら検討することが望ましい。一覧表に集約し、科目間の関連ならびにカリキュラムマップで年次進行と学修内容を確認する。専任教員が担当分野の非常勤講師および校外・臨地実習担当者と連携を密にするための仕組み作りが重要。
4. 課題の抽出は、「学修目標」に対して、不足項目はないか、重複している項目はないか(重複すること自体が悪いわけではない)、学修目標別に費やしている時間配分は適切であるか、開講時期は適切であるか、などについて点検する。栄養学教育コアカリ以外で開講している科目等を各養成施設の特徴として抽出し、教育内容を確認・整理する。
5. 抽出した課題から、カリキュラム改正の必要性を検討する。
6. カリキュラム改正にあたっては、①カリキュラム編成、②科目変更(新設、廃止、名称変更、単位数、履修形式)、③開講時期などに栄養学教育コアカリを反映させる。シラバス改訂にあたっては、①各科目の学修目標、②授業計画、③評価方法などに反映させる。時間割、学生への負担、担当教員の時間数、施設利用状況などの観点から、実施可能性を確認する。さらに栄養学教育コアカリとの整合性について最終確認を行う。
7. 改正案が、栄養士法施行規則ならびに管理栄養士学校指定規則に適合しているか点検・確認を行う。必要な手続き(学期改正および関係省庁への届け出など)およびシラバス改訂、学生への周知、非常勤講師・校外臨地実習担当者への周知を行う。
実施後、栄養学教育コアカリを活用した効果について、客観的に測定できるように評価方法を定め(授業アンケートや成績評価等)、実施する。また、カリキュラム改正やシラバス改訂後の教育内容について、栄養学教育コアカリを活用して再度評価を行い、PDCAサイクルを回す。この時、社会のニーズに合わせた教育内容の検討が必要である。
栄養学教育コアカリ以外の学修内容についても同様に、社会のニーズ等を見据えて、継続的に検討を行う

8. あなたが考えるコアカリ活用の方法(手順など)やポイントがあればご紹介ください。

[]

9. あなたについて教えてください。

9-1. 所属する養成校名を教えてください。 例:〇〇大学〇〇学部

[]

9-2. 所属する養成施設の所在地域を教えてください。(〇は1つ)

- ①北海道 ②東北 ③関東・甲信越 ④北陸 ⑤東海 ⑥近畿 ⑦中国 ⑧四国
⑨九州・沖縄

9-3. 所属する養成施設の分類を教えてください。(〇は1つ)

- ①4年制大学の管理栄養士養成施設 ②専門学校の管理栄養士養成施設

9-4. 現在の主な職業を教えてください。(〇は1つ)

- ①専任教員 ②非常勤講師 ③その他 ()

9-5. 勤務校での立場(役職)であてはまるものを教えてください。(〇はいくつでも)

- ①学部長、学科長、専攻長等の管理栄養士養成課程の長
②教務委員長や教務主任等カリキュラム改訂をとりまとめる立場
③①、②ともあてはまらないがカリキュラム改訂に関わる立場
→役職名や委員会名 ()
④カリキュラム改訂には関わっていない

9-6. 主な教育・研究分野を教えてください。(〇は1つ)

- ①臨床栄養学 ②公衆栄養学 ③栄養教育論 ④給食経営管理論 ⑤応用栄養学
⑥基礎栄養学 ⑦調理学 ⑧公衆衛生学 ⑨生化学 ⑩解剖生理学
⑪臨床医学 ⑫食品学 ⑬食品衛生学 ⑭その他 ()

10. 本研修会に対してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

[]

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

栄養士養成施設ご所属の方

栄養学教育モデル・コア・カリキュラム活用支援ガイド 研修会アンケート

この度は、「管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」(以下、コアカリ)活用支援ガイド研修会にご参加いただきありがとうございました。本研修会は、コアカリ活用支援ガイドの普及と検証を目的として開催いたしました。ぜひとも、アンケートへのご協力をお願いいたします。なお、本アンケートへの回答内容は統計的に処理されるため、個人が特定されることはありません。また、結果を目的以外に使用することはありません。(所要時間は5～10分です。)

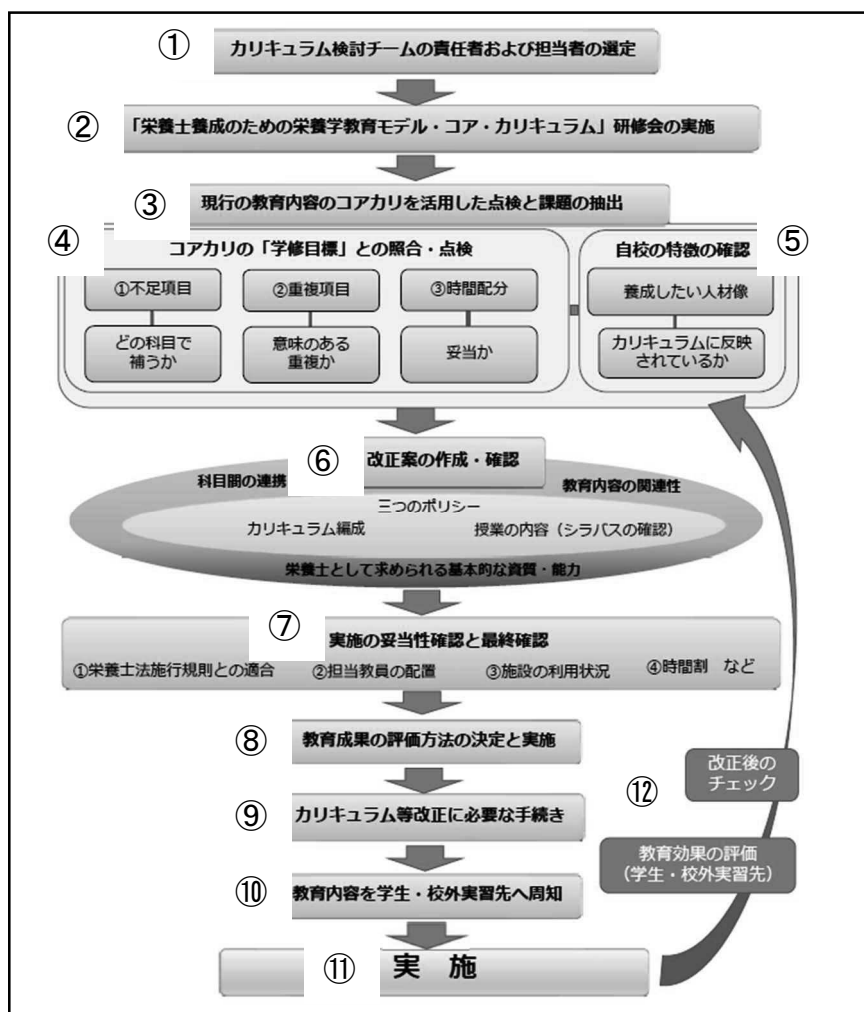
1. 本研修会にご参加くださった理由をお選びください。(〇はいくつでも)

- ①コアカリを現在、教育に活用しているから
- ②コアカリを今後、教育に活用していきたいと思ったから
- ③コアカリに対する知識を増やそうと思ったから
- ④コアカリを知る良い機会だと思ったから
- ⑤コアカリ活用支援ガイドの内容を詳しく知りたかったから
- ⑥コアカリ活用支援ガイドを活用したいと思ったから
- ⑦知り合いから勧められたから
- ⑧何となく興味があったから
- ⑨その他 ()

2. 本研修会で解説されたコアカリ活用支援ガイドのコアカリ活用の手順例(下図)の中で、学内ですでに実施しているものがあれば教えてください。(〇はいくつでも)

- ①カリキュラム検討チームの責任者および担当者の選定
- ②コアカリ研修会の実施
- ③貴校の現行の教育内容のコアカリを活用した点検と課題の抽出
- ④貴校の現行の教育内容とコアカリの「学修目標」との照合・点検
- ⑤貴校のカリキュラムの特徴の確認
- ⑥カリキュラム改正案の作成・確認
- ⑦実施の妥当性確認と最終確認
- ⑧教育成果の評価方法の決定と実施
- ⑨カリキュラム等改正に必要な手続き
- ⑩教育内容を学生・校外実習先へ周知
- ⑪カリキュラム等改正の実施
- ⑫改正後のチェック
- ⑬その他 ()
- ⑭実施しているものはない

図 栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例



3. 本研修会への参加以前に、コアカリ(平成 30 年度作成)の内容についてどの程度知っていましたか。(〇は1つ)

- ①よく知っていた →3-1、3-2へ
- ②全体を概ね知っていた →3-1、3-2へ
- ③担当科目の範囲は知っていた →3-1、3-2へ
- ④ほとんど知らなかった →3-3へ

3-1. 「①よく知っていた」、「②全体を概ね知っていた」、「③担当科目の範囲は知っていた」と回答した方に質問します。本研修会を通して、コアカリ(平成 30 年度作成)についてどの程度知ることができましたか。(〇はいくつでも)

- ①知っていた内容の再確認ができた
- ②知っていた内容以外で新たに知ることがあった
- ③知っていた内容の理解が深まった
- ④知っていた内容以上に新たに知ることがなかった

3-2. 「①よく知っていた」、「②全体を概ね知っていた」、「③担当科目の範囲は知っていた」と回答した方に質問します。コアカリ(平成 30 年度作成)の内容を学部(学科)内で共有していますか。(〇は1つ)

- ①現在、共有している
→共有方法を教えてください。例：学部(学科)内でコアカリの勉強会(研修会)を実施した
{ }
- ②現在は共有していないが、今後、共有する予定
- ③現在は共有しておらず、今後も共有しないと思う

3-3. 「④ほとんど知らなかった」と回答した方に質問します。本研修会を通して、コアカリ(平成 30 年度作成)についてどの程度理解が深まりましたか。(〇は1つ)

- ①理解が深まった
- ②どちらかという理解が深まった
- ③どちらかという理解は深まらなかった
- ④理解は深まらなかった

4. 本研修会への参加以前に、コアカリ活用支援ガイド(令和元年度作成)の内容についてどの程度知っていましたか。(〇は1つ)

- ①よく知っていた →4-1へ
- ②概ね知っていた →4-1へ
- ③ある程度は知っていた →4-1へ
- ④ほとんど知らなかった →4-2へ

4-1. 「①よく知っていた」、「②概ね知っていた」、「③ある程度は知っていた」と回答した方に質問します。本研修会を通して、コアカリ活用支援ガイド(令和元年度作成)についてどの程度知ることができましたか。(〇はいくつでも)

- ①知っていた内容の再確認ができた
- ②知っていた内容以外で新たに知ることがあった
- ③知っていた内容の理解が深まった
- ④知っていた内容以上に新たに知ることがなかった

4-2. 「④ほとんど知らなかった」と回答した方に質問します。本研修会を通して、コアカリ活用支援ガイド(令和元年度作成)についてどの程度理解が深まりましたか。(〇は1つ)

- ①理解が深まった
- ②どちらかという理解が深まった
- ③どちらかという理解は深まらなかった
- ④理解は深まらなかった

5. 本研修会を通して、役立ったと思う内容を教えてください。

[]

6. 本研修会を通して、今後、あなたの勤務校でコアカ리를活用できる(したい)と思いましたが。(○は1つ)

- ①すでに活用している →7へ
- ②活用できる(したい)と思う →6-1へ
- ③どちらかという活用できる(したい)と思う →6-1へ
- ④どちらかという活用できる(したい)と思わない →6-2へ
- ⑤活用できる(したい)と思わない →6-2へ

6-1. 「②活用できる(したい)と思う」、「③どちらかという活用できる(したい)と思う」と回答した方に質問します。その理由を教えてください。(○はいくつでも)

- ①活用の必要性を感じたから
- ②活用事例を知り、活用できそうだったから
- ③その他 ()

6-2. 「④どちらかという活用できる(したい)と思わない」、「⑤活用できる(したい)と思わない」に質問します。その理由を教えてください。(○はいくつでも)

- ①活用の必要性を感じないから
そう思う理由 ()
- ②勤務先では活用できる状況にないから
そう思う理由 ()
- ③その他 ()

7. 本研修会で解説された栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例(図3)とその解説(図4)の改善点がありましたら教えてください。(〇はいくつでも)

①栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例

→具体的にどの部分ですか。ご自由にご記入ください。

[]

②栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例の解説

→具体的にどの部分ですか。ご自由にご記入ください。

[]

③その他

[]

④改善点は特にない

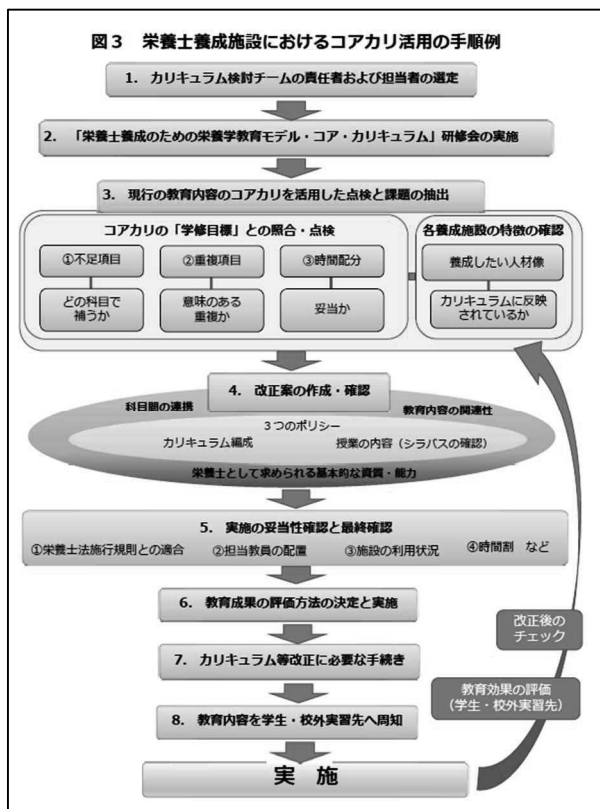


図4 栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例の解説

- カリキュラム検討チームの責任者および担当者の選定**
コアカリの活用にあたっては、全学あるいは学科の責任者がリーダーとなって行うことが重要である。
- 「栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」の研修会**
コアカリについての理解を深めるために、学科内の教員を対象に研修会を行う。非常勤講師についても参加してもらうことが望ましい。
- 現行の教育内容のコアカリを活用した点検と課題の抽出**
コアカリの学習目標(大項目A~G)について、科目を担当している教員が一覧表を用いて、現教育内容がコアカリを網羅しているか、重複している項目はないか(重複すること自体が悪いわけではない)、学習目標別に費やしている時間配分は適切であるか、開講時期は適切であるか、などについて点検する。時間配分や開講時期については、科目担当者だけでは判断が難しいので、複数の教員と議論しながら検討することが望ましい。
併せて、各養成施設の特徴について、教育目的・目標や、それらに基づき策定された3つのポリシー(DP, CP, AP)を踏まえ、養成したい人材像がカリキュラムに反映されているか確認を行う。
- 改正案の作成・確認**
教育内容の改正にあたっては、①3つのポリシー、②カリキュラム編成(科目変更、開講時期など)、③授業の内容(各科目の学習目標、授業計画、評価方法など)のレベルが考えられる。コアカリ以外のカリキュラム(各養成施設における特色ある独自カリキュラムも含む)についても検討を行い、必要に応じて改正を行う。その際全体として、科目間の連携、教育内容の関連性、「A 栄養士として求められる基本的な資質・能力」を反映したものであるか確認する。
次に改正案を反映した内容となるよう、シラバスへの記載内容を修正する。
- 実施の妥当性確認と最終確認**
改正案が、栄養士法施行規則と適合しているか点検を行う。担当教員の配置、施設利用状況、時間割などの観点から、実施可能か確認をする。また、コアカリとの整合性について最終確認を行う。カリキュラム・マップ、履修モデルなどを活用し、改正案の妥当性についても最終確認する。
- 教育成果の評価方法の決定と実施**
カリキュラムを改正した効果について、客観的に測定できるように評価方法を定め、改正前の学生に対して評価を実施しておく。教育効果を客観的に評価することは難しいが、2~3つの重点項目に絞り、複数の指標を用いることが有効であると考えられる。
- カリキュラム等改正に必要な手続き**
カリキュラム等改正を行う場合、関係部門へ必要な手続きを行う。その際、申請時期などを念頭に置きながら、活用検科スケジュールを組む必要がある。
- 教育内容を学生・校外実習先へ周知**
DP、CPおよびカリキュラムの全体像などについて、入学時のオリエンテーションなどで、学生に十分な周知を行う。また、各科目の「ねらい」や「学習目標」については、担当教員がシラバス等を用いて授業内で説明を行う。校外実習を効果的に進めるために、実習先と実習計画の打ち合わせをする際コアカリを配付して、コアカリの学習目標の説明を行うと良い。
- 改正後のチェック**
PDCAサイクルの観点から、教育内容等の改正効果について評価を行い、改正前の評価結果と比較分析を行い、継続的な改善が行えるようにする。

8. あなたが考えるコアカリ活用の方法(手順など)やポイントがあればご紹介ください。

[]

9. あなたについて教えてください。

9-1. 所属する養成校名を教えてください。 例:〇〇大学短期大学部

[]

9-2. 所属する養成施設の所在地域を教えてください。(〇は1つ)

- ①北海道 ②東北 ③関東・甲信越 ④北陸 ⑤東海 ⑥近畿 ⑦中国 ⑧四国
⑨九州・沖縄

9-3. 所属する養成施設の分類を教えてください。(〇は1つ)

- ①4年制大学の栄養士養成施設 ②短期大学の栄養士養成施設 ③専門学校の栄養士養成施設

9-4. 現在の主な職業を教えてください。(〇は1つ)

- ①専任教員 ②非常勤講師 ③その他 ()

9-5. 勤務校での立場(役職)であてはまるものを教えてください。(〇はいくつでも)

- ①学部長、学科長、専攻長等の栄養士養成課程の長
②教務委員長や教務主任等カリキュラム改訂をとりまとめる立場
③①、②ともあてはまらないがカリキュラム改訂に関わる立場
→役職名や委員会名 ()
④カリキュラム改訂には関わっていない

9-6. 主な教育・研究分野を教えてください。(〇は1つ)

- ①臨床栄養学 ②公衆栄養学 ③栄養教育論 ④給食経営管理論 ⑤応用栄養学
⑥基礎栄養学 ⑦調理学 ⑧公衆衛生学 ⑨生化学 ⑩解剖生理学
⑪臨床医学 ⑫食品学 ⑬食品衛生学 ⑭その他 ()

10. 本研修会に対してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

[]

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

表 1-1 支援ガイド研修会参加者の特性（管理栄養士養成施設）

n=85		
項目	人数	%
所属する養成施設の所在地域		
北海道	3	3.5
東北	0	0.0
関東・甲信越	20	23.5
北陸	0	0.0
東海	9	10.6
近畿	12	14.1
中国	18	21.2
四国	8	9.4
九州・沖縄	2	2.4
未回答	13	15.3
所属養成施設		
4年生大学の管理栄養士養成施設	71	83.5
専門学校の管理栄養士養成施設	1	1.2
未回答	13	15.3
現在の主な職業		
専任教員	61	71.8
非常勤講師	2	2.4
その他 ^{※1}	9	10.6
未回答	13	15.3
勤務校での立場（役職）		
学部長，学科長，専攻長等の管理栄養士養成課程の長	9	10.6
教務委員長や教務主任等カリキュラム改正をとりまとめる立場	9	10.6
カリキュラム改訂には関わっていない	42	49.4
上記以外でカリキュラム改正に関わる立場 ^{※2}	12	14.1
未回答	13	15.3

※1 助手8名，職員1名

※2 学部/学科教務委員5名，ワーキンググループリーダー1名，他6名

表 1-2 支援ガイド研修会参加者の専門分野と参加理由（管理栄養士養成施設）

n=85

項目	人数	%
主な教育・研究分野		
臨床栄養学	10	11.8
公衆栄養学	10	11.8
栄養教育論	10	11.8
給食経営管理論	8	9.4
応用栄養学	4	4.7
基礎栄養学	2	2.4
調理学	0	0.0
公衆衛生学	2	2.4
生化学	3	3.5
解剖生理学	4	4.7
臨床医学	1	1.2
食品学	4	4.7
食品衛生学	3	3.5
その他 ^{※1}	11	12.9
未回答	13	15.3
コアカリ研修会参加理由（複数回答）		
コアカリを現在，教育に活用しているから	23	27.1
コアカリを今後，教育に活用していきたいと思ったから	33	38.8
コアカリに対する知識を増やそうと思ったから	49	57.6
コアカリを知る良い機会だと思ったから	24	28.2
コアカリ活用支援ガイドの内容を詳しく知りたかったから	41	48.2
コアカリ活用支援ガイドを活用したいと思ったから	17	20.0
知り合いから勧められたから	13	15.3
何となく興味があったから	2	2.4
その他 ^{※2}	5	5.9

※1 スポーツ栄養学，基礎教養，心理学，病原微生物学，病理学，特定の教育分野なし

※2 学科会議・学科長・所属施設・教務委員からの推奨・周知を受けて参加

表 2-1 支援ガイド研修会参加者のコアカリ活用状況と認知程度および共有状況
(管理栄養士養成施設) n=85

項目	人数	%
研修会参加時点でのコアカリ活用状況 (複数回答)		
コアカリについて学科内等の勉強会 (研修) の実施	25	29.4
カリキュラム検討の体制づくり (責任者および担当者の選定) と学内での承認	28	32.9
現行の教育内容とコアカリの「学修目標」との照合・点検作業	29	34.1
教育内容 (科目など) の関連性 (つながりや重なり) の確認と課題の抽出	28	32.9
コアカリ以外の学修内容の整理 (貴校のカリキュラムの特徴の確認)	21	24.7
カリキュラム改正の必要性の検討	19	22.4
カリキュラム改正案作成・確認	8	9.4
シラバスの改訂案作成・確認	13	15.3
カリキュラム改正案と栄養士法施行規則ならびに管理栄養士学校指定規則との適合確認	6	7.1
カリキュラム改正の実施	7	8.2
シラバス改訂の実施	13	15.3
改正後のチェックや教育効果の評価	5	5.9
実施しているものはない	23	27.1
その他 ^{※1}	2	2.4
コアカリの内容についての認知の程度		
よく知っていた	11	12.9
全体を概ね知っていた	25	29.4
担当科目の範囲は知っていた	23	27.1
ほとんど知らなかった	20	23.5
未回答	6	7.1
コアカリの内容を「よく/全体を概ね/担当科目の範囲を知っていた」と回答した者 (59名) について、コアカリの学部 (学科) 内での共有状況		
現在、共有している ^{※2}	30	50.8
現在は共有していないが、今後、共有する予定	23	39.0
現在は共有しておらず、今後も共有しないと思う	5	8.5
未回答	1	1.7

※1 特定の関連科目での科目間連携や不足項目、重複項目の確認および対応等のディスカッション

※2 「共有している」と回答した30名のうち、21名が次の方法で共有していると回答した。
「コアカリ学習会/研修会の実施」 (8名)
「学部会議/学科会議で検討・共有」 (5名)
「学科内のコアカリ検討会/ワーキンググループでの検討と学科会議での共有」 (3名)
「FD/SD研修の活用」 (3名)
「教務委員による説明」 (1名)
「シラバス作成時での活用の促し」 (1名) であった

表2-2 支援ガイド研修会参加者のコアカリの認知状況と研修会での理解状況
(管理栄養士養成施設) n=85

項目	人数	%
コアカリの内容を「よく/全体を概ね/担当科目の範囲を知っていた」と回答した者 (59名)について、本研修会でのコアカリの認知の促進状況 (複数回答)		
知っていた内容の再確認ができた	25	42.4
知っていた内容以外で新たに知ることがあった	30	50.8
知っていた内容の理解が深まった	27	45.8
知っていた内容以上に新たに知ることがなかった	0	0.0
コアカリ(平成30年度作成)の内容についての認知の程度で「ほとんど知らなかった」と 回答した者(20名)について、本研修会でのコアカリの理解の深化		
理解が深まった	5	25.0
どちらかという理解が深まった	14	70.0
どちらかという理解は深まらなかった	0	0.0
理解は深まらなかった	1	5.0

表3 支援ガイド研修会参加者のコアカリの活用意欲(管理栄養士養成施設)

n=85

項目	人数	%
本研修会を通して、今後の勤務校でのコアカリ活用の見通し		
①すでに活用している	18	21.2
②活用できる(したい)と思う	37	43.5
③どちらかという活用できる(したい)と思う	18	21.2
④どちらかという活用できる(したい)と思わない	0	0.0
⑤活用できる(したい)と思わない ^{※1}	2	2.4
未回答	10	11.8
コアカリを「活用できる(したい)と思う」「どちらかという活用できる (したい)と思う」と回答した者(55名)について、そう考える理由(複数回答)		
①活用の必要性を感じたから	43	42.4
②活用事例を知り、活用できそうだったから	22	50.8
その他 ^{※2}	1	45.8

※1 コアカリを「活用できる(したい)と思わない」と回答した者がそう考える理由は活用するためのマンパワー不足、コアカリそのものに対する理解不足であった。

※2 個人レベルであればコアカリ活用はできるが、事務や学科長を巻き込んだ活用までは難しいと考える。

表4 管理栄養士養成施設におけるコアカリ活用に関する考え

管理栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例（図1）について（有効回答2名）

- ・教育効果の評価について、学生のアンケート，第三者評価(学外教員)と以外の例があれば示してほしい。
- ・定期的な研修が必要である。

管理栄養士養成施設におけるコアカリ活用の手順例の解説（図2）について（有効回答4名）

- ・7に関して，良い案・具体策であったとしても，手続きが煩雑であり簡易化されることが望ましい。
- ・評価が重要である。認証評価のように，独立した組織による検証やアセスメント委員会などを検討する。
- ・評価方法に関し，評価項目などの具体的な事例があるとよい。
- ・図やフローチャート形式での表現の方が分かりやすい。

その他（有効回答6名）（要約）

- ・コアカリの活用もPDCAが必要である。カリキュラムの活用・議論ができる人材が少ないことが問題。
- ・よくできている。
- ・栄養学に関する社会のニーズや動向・栄養管理の方向性に関し，学会会員以外の教員への周知も重要である。
そのためには，他学会との連携やHP・チラシ等で活発に情報発信する必要がある。
- ・予め，所属長を対象とした研修会の学外での実施が必要である。
- ・共通理解を得るコツが必要である。
- ・法改正に備えることや，積極的に法改正を促すような働きかけの強調が必要である。

あなたが考えるコアカリ活用の方法（手順など）やポイント。（有効回答12名）
（箇条書きで整理）

- ・基礎から実践まで幅広い科目を担当するさまざまな教員，管理栄養士ではない教員などの共通理解を得るための仕組みづくり
 - ・コアカリに沿った教育内容と質についての定期的な評価での活用
 - ・各教員が担当する科目と，他の科目との関連性の理解の促し
 - ・各教員が担当する科目の内容が将来の就業等への活かされ方の理解
 - ・卒後教育も踏まえたカリキュラムの見直し
 - ・コアカリ以外の内容で4割を占める部分に，養成施設の強みや特徴をどう反映させるか
 - ・大学院教育，リカレント教育とのつながり
 - ・社会のニーズへの対応を考えるきっかけ
 - ・改善学会が提示する参考資料のより有効な活用
-

表5-1 支援ガイド研修会参加者の特性(栄養士養成施設)

n=35

項目	人数	%
所属する養成施設の所在地域		
北海道	3	8.6
東北	2	5.7
関東・甲信越	11	31.4
北陸	1	2.9
東海	3	8.6
近畿	2	5.7
中国	0	0.0
四国	0	0.0
九州・沖縄	4	11.4
未回答	9	25.7
所属養成施設		
4年制大学の栄養士養成施設	3	8.6
短期大学の栄養士養成施設	19	54.3
専門学校での栄養士養成施設	4	11.4
未回答	9	25.7
現在の主な職業		
専任教員	26	74.3
非常勤講師	0	0.0
未回答	9	25.7
勤務校での立場(役職)		
学部長, 学科長, 専攻長等の栄養士養成課程の長	6	17.1
教務委員長や教務主任等カリキュラム改正をとりまとめる立場	4	11.4
カリキュラム改訂には関わっていない	14	40.0
上記以外でカリキュラム改訂に関わる立場 ^{※1}	2	5.7
未回答	9	25.7
主な教育・研究分野		
臨床栄養学	3	8.6
公衆栄養学	2	5.7
栄養教育論	4	11.4
給食経営管理論	6	17.1
応用栄養学	1	2.9
基礎栄養学	1	2.9
調理学	1	2.9
生化学	2	5.7
食品学	3	8.6
食品衛生学	2	5.7
その他 ^{※2}	1	2.9
未回答	9	25.7

※1 カリキュラム委員, ワーキンググループ

※2 健康科学

表5-2 支援ガイド研修会への参加理由(栄養士養成施設) n=35

項目	人数	%
コアカリ研修会参加理由（複数回答）		
コアカリを現在、教育に活用しているから	12	34.3
コアカリを今後、教育に活用していきたいと思ったから	24	68.6
コアカリに対する知識を増やそうと思ったから	18	51.4
コアカリを知る良い機会だと思ったから	14	40.0
コアカリ活用支援ガイドの内容を詳しく知りたかったから	24	68.6
コアカリ活用支援ガイドを活用したいと思ったから	12	34.3
知り合いから勧められたから	4	11.4
何となく興味があったから	0	0.0
その他 ^{※1}	1	2.9

※1 現在のコアカリ活用のブラッシュアップのため

表6-1 支援ガイド研修会参加者の活用状況（栄養士養成施設） n=35

項目	人数	%
研修会参加時点でのコアカリ活用状況（複数回答）		
カリキュラム検討チームの責任者および担当者の選定	6	17.1
コアカリ研修会の実施	6	17.1
現行の教育内容のコアカリを活用した点検と課題の抽出	4	11.4
現行の教育内容とコアカリの「学修目標」との照合・点検	10	28.6
カリキュラムの特徴の確認	8	22.9
カリキュラム改正案の作成・確認	4	11.4
実施の妥当性確認と最終確認	1	2.9
教育成果の評価方法の決定と実施	2	5.7
カリキュラム等改正に必要な手続き	3	8.6
教育内容を学生・校外実習先へ周知	1	2.9
カリキュラム等改正の実施	1	2.9
改正後のチェックや教育効果の評価	1	2.9
実施しているものはない	11	31.4
その他 ^{※1}	1	2.9

※1 DP等の見直し

表6-2 支援ガイド研修会参加者のコアカリの認知の状況（栄養士養成施設） n=35

項目	人数	%
コアカリの内容についての認知の程度		
よく知っていた	1	2.9
全体を概ね知っていた	17	48.6
担当科目の範囲は知っていた	7	20.0
ほとんど知らなかった	4	11.4
未回答	6	17.1
コアカリの内容を「よく/全体を概ね/担当科目の範囲を知っていた」と回答した者（25名）について、本研修会でのコアカリの認知の促進状況（複数回答）		
知っていた内容の再確認ができた	9	36.0
知っていた内容以外で新たに知ることがあった	16	64.0
知っていた内容の理解が深まった	13	52.0
知っていた内容以上に新たに知ることがなかった	1	4.0
コアカリの内容を「よく/全体を概ね/担当科目の範囲を知っていた」と回答した者（25名）について、コアカリの学部（学科）内での共有状況		
現在、共有している ^{※1}	12	48.0
現在は共有していないが、今後、共有する予定	10	40.0
現在は共有しておらず、今後も共有しないと思う	3	12.0
コアカリ（平成30年度作成）の内容についての認知の程度で「ほとんど知らなかった」と回答した者（4名）について、本研修会でのコアカリの理解の深化		
理解が深まった	1	25.0
どちらかという理解が深まった	3	75.0
どちらかという理解は深まらなかった	0	0.0
理解は深まらなかった	0	0.0

※1 「共有している」と回答した25名のうち、11名が次の方法で共有していると回答した。
「学部/学科等での情報共有」（6名）、「コアカリ学習会/研修会の実施」（3名）、「シラバス作成時での活用」（1名）、「FD研修の活用」（1名）

表7 支援ガイド研修会参加者のコアカリの活用意欲（栄養士養成施設） n=35

項目	人数	%
本研修会を通して、今後の勤務校でのコアカリ活用の見通し		
すでに活用している	3	8.6
活用できる（したい）と思う	17	48.6
どちらかという活用できる（したい）と思う	7	20.0
どちらかという活用できる（したい）と思わない	0	0.0
活用できる（したい）と思わない	0	0.0
未回答	8	22.8
コアカリを「活用できる（したい）と思う」「どちらかという活用できる（したい）と思う」と回答した者（24名）について、そう考える理由（複数回答）		
活用の必要性を感じたから	18	75.0
活用事例を知り、活用できそうだったから	8	33.3
その他 ^{※1}	2	8.3

※1 カリキュラム点検法の実例など、活用や改善のための根拠として活用できる可能性がある。